

名城エリアにぎわい共創基本構想

～共に創る歴史・観光・憩いのにぎわい拠点～

(案)



令和 年 月
名古屋市

目次

1. 基本構想策定にあたって	1
(1) 策定目的	1
(2) 位置づけ	2
(3) 対象エリア	3
(4) 策定体制	4
2. 名城エリアの現状と課題	5
(1) 名城エリアの歴史	5
(2) 名城エリアの地域特性	9
(3) 名城エリアの現状と課題	11
3. 名城エリアのあり方	19
(1) 目指すべき姿	19
(2) にぎわい拠点形成に向けた方向性	21
4. 名城エリアのにぎわい拠点形成に向けた取り組み	23
(1) 主な取り組み	23
(2) 将来イメージ	29
5. スケジュールイメージ	30
資料編 基本構想の策定経過	31
(1) プロジェクトチーム・ワーキンググループ	31
(2) エリアミーティング	35
(3) 有識者ヒアリング	39

※本計画では活用するという意味の「いかす」を「活かす」と表現しています。

1. 基本構想策定にあたって

(1) 策定目的

名城エリア(以下「本エリア」という。)は国内外の観光客からの認知度も高い名古屋城や市民の憩いの場である名城公園を擁し、中部地方のゲートウェイである名古屋駅からもほど近いことから、観光客にとって市内周遊の核であるとともに、日常的に市民や学生が集うエリアとなっています。

また、令和7(2025)年の愛知国際アリーナ(以下「IGアリーナ」という。)や、エスパシオ ナゴヤキャスルの開業、天守閣をはじめとする名古屋城の整備、第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会(以下「アジア・アジアパラ競技大会」という。)を見据えた名城公園の再整備等、来訪者の更なる増加が見込まれる事業が予定され、さらにはリニア中央新幹線の開業も控えています。一方で、来訪者の増加に伴い、周辺道路や地下鉄の混雑等といった課題の発生も懸念されるどころです。

このような本エリアを取り巻く状況変化を好機とし、本エリアが誇る名古屋城築城からの歴史的ストーリーや国内外の観光トレンドを踏まえた新たな魅力創出、魅力資源の面的な活用により、生活環境との調和を図りつつ本エリアの更なる魅力向上とにぎわい創出を図り、名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツの拠点の形成を目指すため、多様な活動主体が一丸となって戦略的に取り組む上での指針となる「名城エリアにぎわい共創基本構想(以下「基本構想」という。)」を策定します。

基本構想に基づく取り組みの期間は、名古屋城一般公開・名城公園開園100周年となる令和13(2031)年を目途としますが、基本構想の内容はそれ以降の将来的な展望も見据えたものとなります。



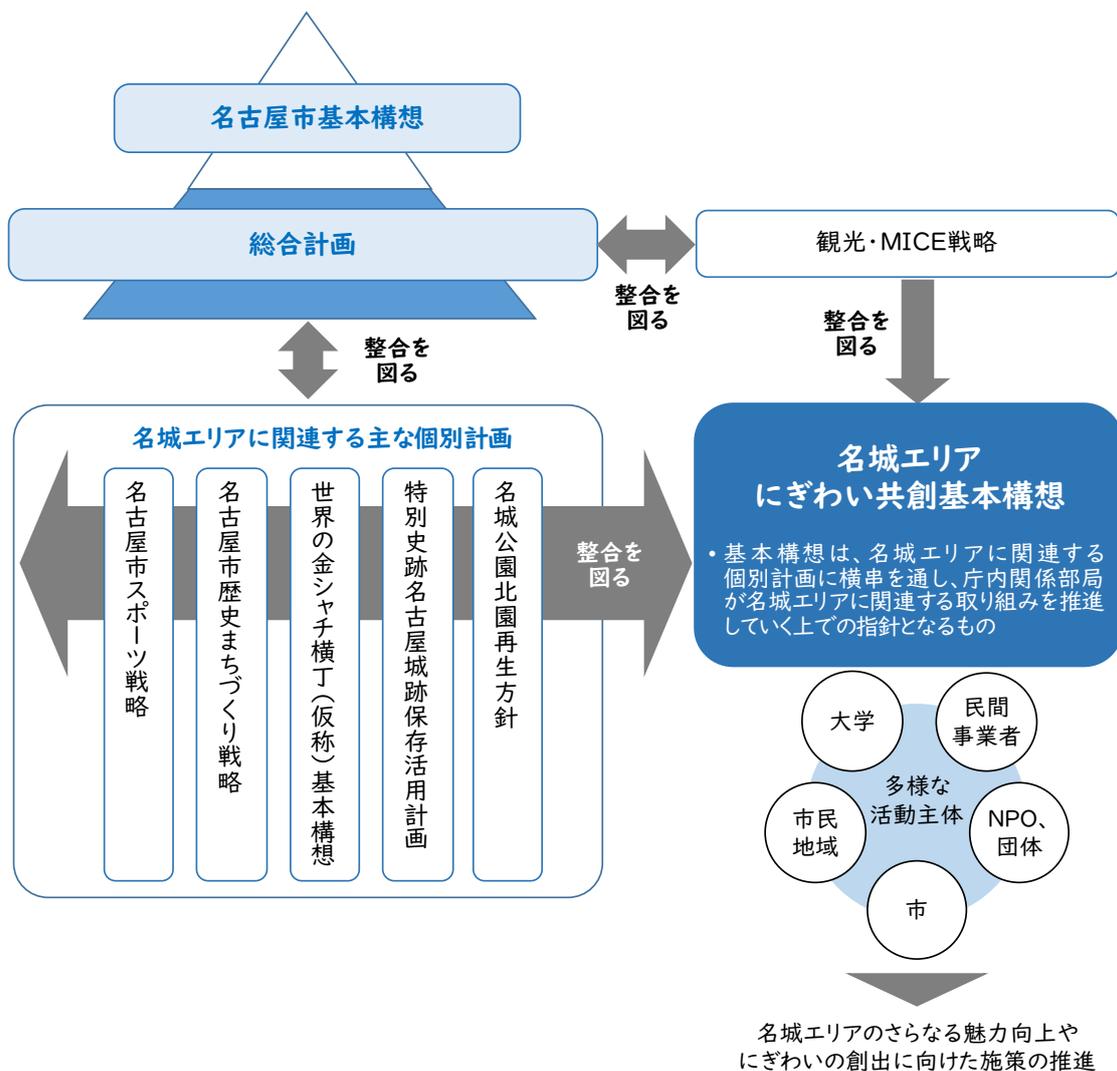
図表 1-1 名城エリアの現況

(2) 位置づけ

名古屋市総合計画 2028（以下「総合計画」という。）においては、長期的展望に立ったまちづくりとして文化・歴史資源が持つ価値が好循環し、成長と活力を生み続ける交流拠点都市を実現するとしており、施策の柱として「世界に誇れるまちづくりの推進」を掲げ、名古屋駅・栄・金山地区、また名城・三の丸地区等の拠点機能の強化や民間再開発の促進等により世界から人や企業をひきつけ、魅力と活力に溢れるまちづくりを進めることとしています。

また、観光・MICE分野における取り組みを示す名古屋市観光・MICE戦略2028（以下「観光・MICE戦略」という。）においては、注力する観光まちづくりエリアとして、本エリアを位置づけており、本エリア特有のストーリー化された魅力資源を繋ぎ、点から線、そして面へと広げることで更なる観光誘客を推進するとしています。

本基本構想は、「総合計画」と整合を図りながら「観光・MICE戦略」に加え、「特別史跡名古屋城跡保存活用計画」や「名城公園北園再生方針」をはじめとする歴史・文化・スポーツの各分野の個別計画に横串を通し、庁内関係部局が連携を図りながら本エリアに関連する取り組みを推進するための指針としての役割を担います。さらに、本エリアに関わる多様な活動主体にとっても取り組みを進める上での指針とするものです。



図表 1-2 基本構想の位置づけ

(3) 対象エリア

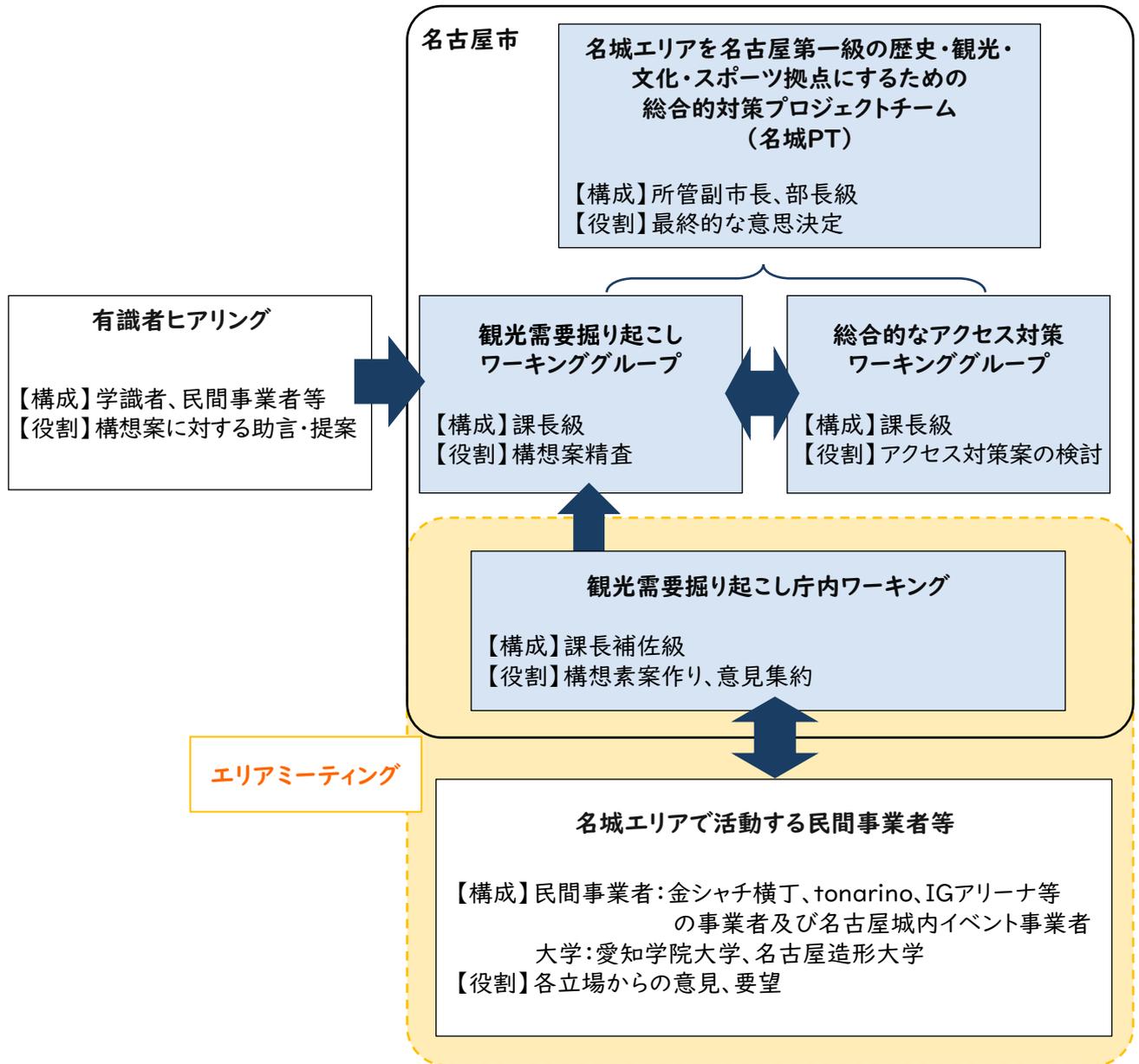
名古屋城及び名城公園北園（以下「北園」という。）に加えて隣接する大学やエスパシオ ナゴヤキャッスル等を含み、また、本エリアを訪れる観光客等の人流やにぎわいを周辺地域へ波及させることも意図した範囲とします。



図表 1-3 名城エリアの範囲

(4) 策定体制

基本構想の策定を進めるにあたり、市内関係部局との会議に加え、本エリアで活動する民間事業者や大学関係者と意見交換を行うエリアミーティング、専門的な知見を有する有識者へのヒアリングを実施しました。



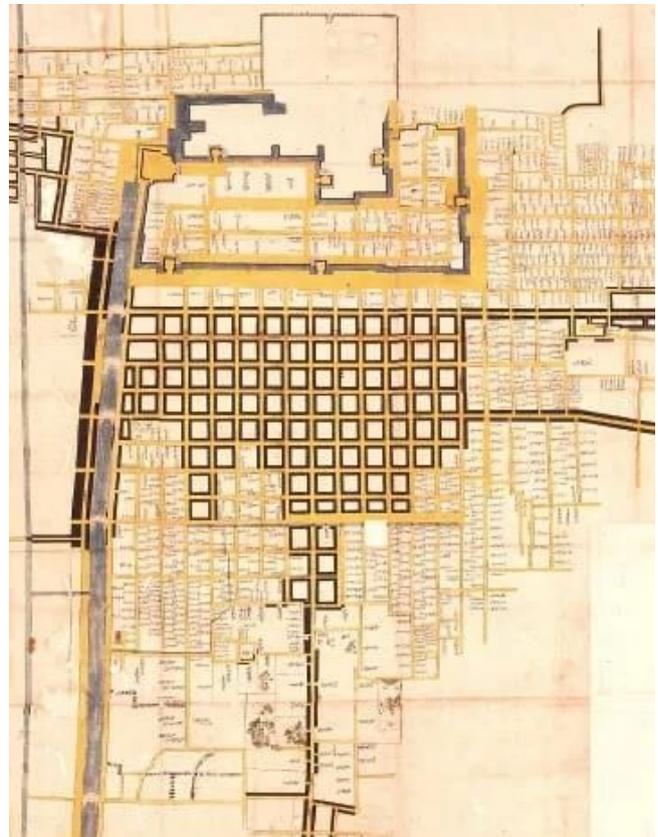
図表 1-4 基本構想の策定体制

2. 名城エリアの現状と課題

(1) 名城エリアの歴史

近世名古屋城の築城は、徳川家康が慶長15(1610)年より西国・北国の諸大名に命じて公儀普請で実施されました。熱田台地の北西端に総石垣造りの巨大城郭が築かれるとともに、碁盤割の城下が形成され、以後、尾張藩の政庁所在地として、名古屋は尾張国の政治・経済の中心地へ発展しました。

名古屋城の天守は江戸時代を通じて遺った天守としては国内最大規模を誇ったほか、金鯨を載せる唯一の天守だったことから、尾張藩士はもとより名古屋の庶民にとっても誇りとなる名古屋の象徴建造物として親しまれました。天下随一の天守を仰ぎ見る名古屋城下町は、御三家筆頭・尾張徳川家のお膝元として独自の文化が花開き、東海地方屈指の大都市として発展しました。



図表 2-1 万治年間名古屋絵図

所蔵:名古屋城振興協会

コラム

■清須の町ごと名古屋へ引っ越す「清須越」と、城下町の形成

名古屋城築城以前に尾張の中心拠点であったのは清須城でした。清須城は、水害等の危険性が高いため新たに築城の必要があるとの上申が徳川家康になされ、家康は、慶長14(1609)年、熱田台地に城を造るよう命じるとともに、清須の町をまるごと名古屋へ引っ越す「清須越」を計画しました。さらに、家康は、清須越に向けて名古屋城を中心とした城下町の構造計画を練り、城下には町人の経済活動が円滑にできるよう碁盤割の町をつくったのです。この碁盤割の町に、清須越で移動してきた商人や職人たちが住み、まちづくりが進められ、名古屋のモノづくり文化に繋がりました。

■御三家筆頭・尾張徳川家が築いた歴史・文化

徳川家康の九男・義直が名古屋城の初代藩主となり、尾張徳川家の歴史が始まります。義直、光友、綱誠、吉通、五郎太、継友、宗春、宗勝、宗睦、斉朝、斉温、斉荘、慶城、慶恕(慶勝)、茂徳、義宜。16人の藩主によって、260年余りの治世が続きました。

初代藩主 徳川義直は、芸能への理解も深く、小鼓の名手でした。二代目光友は父の義直以上に芸能を好み、「金春流の家元筋に次ぐ能の名手はこの人しかいない」と言われるほど能が上手でした。藩主だけでなく側近の家臣も能を習い、誰もが能役者並みの腕前だったと言われています。尾張藩では義直以来、茶道が大切にされ、町人にも広まっていき、茶道とは切り離せない和菓子も進化・発展しました。こうして、尾張徳川家の人々を中心として祭りや芸能、食文化が発達し、城下にはぎわいに溢れ、現在の名古屋の文化を形成する礎となりました。

現在の北園がある名古屋城の北側は、江戸時代には下御深井御庭^{したおふけおにわ}と呼ばれ、尾張藩主の庭園として利用されていました。三代将軍家光の上洛の際に造営したとされ、その後、十代藩主斉朝の時代にも庭園の改造が行われました。下御深井御庭には茶席や、薬園、陶器を焼く窯、田園、架空の宿場町が造営され、尾張藩主は名古屋城の水堀にある船着場から舟に乗って下御深井御庭へ行き来をしていました。斉朝は、頻繁に下御深井御庭に行き、水鳥の狩猟等を楽しんだと言われています。また、幕府の上使が名古屋城に来た際には、上使をもてなすために御座船に乗せ、下御深井御庭の御茶屋まで招き入れていました。このように、下御深井御庭は尾張藩主の私的な遊興空間・儀礼空間であるとともに、名古屋城北部の防衛空間であったことから、立ち入りは制限され、当時、一般には知られることのない「秘園」であったと言われています。

明治に入ると、名古屋城は陸軍省の所管となり、明治22(1889)年には北側の庭園が陸軍省の練兵場として解体されました。

明治26(1893)年に、名古屋城の一部は宮内省へ移管され、名古屋離宮となり、昭和5(1930)年に名古屋離宮廃止に伴い離宮一帯が本市へ下賜され、翌年には名古屋城が名城公園として開園し、一般公開となりました。それまで遠くから眺めて自慢していた城が市民のものになるということで、開園時には市民が一斉になだれこんだと言われています。以降、名古屋城は名古屋市民にとってより身近な存在となり、名古屋のシンボル、誇りとして親しまれる存在となっています。

また、昭和24(1949)年から北練兵場跡である北園を中心に順次整備が進められ、今日では、都心の緑の拠点、スポーツ、レクリエーションの場としてにぎわいをみせています。



図表 2-2 斉朝による改造後の下御深井御庭

所蔵:名古屋市蓬左文庫

■名古屋城の焼失と再建

昭和20(1945)年5月14日、アメリカ軍の空襲により名古屋城は一部を残して焼失しました。城の再建は市民の悲願であり、再建には約6億円の巨費が充てられ、そのうち2億あまりが名古屋城再建後援会の募金による市民等からの浄財でした。

そして、再建に向けた工事が進められ、昭和34(1959)年8月6日、城のシンボル金鯱の取り付け工事が終わり、14年ぶりに名古屋の空にさん然と光り輝く、現天守閣が完成しました。



出典：名古屋城再建の記録

■北園の建設

現在の北園は、名古屋城を含む区域とともに、昭和22(1947)年に都市計画公園・第13号名城公園として都市計画決定がなされました。昭和24(1949)年頃から敷地造成工事が始まり、昭和31(1956)年に作成された名城公園計画図に基づいて、主要園路、花木園、おふけ池等、北園の整備が進められていきました。その他の区域は、暫定的に野球場として整備され、市民に広く利用されるようになりました。

昭和30(1955)年10月、第1回名古屋まつりが開催され、その協賛事業として当初は、名城公園をはじめ5箇所でも号砲が打ち上げられていました。その後、花火大会が行われるようになり、城を背にした夜空の絵巻物に多くの市民が酔いしれました。花火は名古屋まつりの名物の一つでしたが、昭和48(1973)年を最後に中止となりました。

昭和63(1988)年には名城公園を主会場に第6回全国都市緑化なごやフェア「緑花祭なごや'88」が開催され、「オランダ風車」、「フラワープラザ」が完成しました。

そして、名城公園は平成元(1989)年に「日本の都市公園100選」に、平成18(2006)年に「日本の歴史公園100選」に指定されました。



出典：土木行政のあゆみ



提供：名古屋まつり協進会



提供：名古屋まつり協進会

慶長15(1610)年	・名古屋城普請開始 ・清須越が始まる ・堀川の開削工事着手(慶長16年 名古屋城から熱田まで開削工事完了)
慶長17(1612)年	・名古屋城天守竣工
慶長18(1613)年	・城下町が整い始める
慶長20(1615)年	・本丸御殿完成
元和2(1616)年	・初代藩主義直が名古屋城に入城
寛永年間(1624~44年)頃	・下御深井御庭の造営
明治5(1872)年	・名古屋城陸軍省の所管に
明治9(1876)年	・堀川(黒川)の開削工事着手 (明治10年 名古屋城から庄内川まで開削工事完了)
明治22(1889)年	・下御深井御庭へ陸軍省北練兵場を設置
明治26(1893)年	・本丸、西之丸、御深井丸が陸軍省から宮内省の所管に移る ・名古屋離宮と改称
昭和5(1930)年	・名古屋離宮(名古屋城)を宮内省から名古屋市へ下賜 ・名古屋城大天守、小天守、隅櫓、正門、本丸御殿等「国宝(旧国宝)」に指定
昭和6(1931)年	・名古屋城を名城公園として一般公開
昭和7(1932)年	・名古屋城カヤの木「国の天然記念物」に指定 ・名古屋城「史跡」に指定
昭和20(1945)年	・名古屋大空襲により名古屋城天守、本丸御殿等焼失
昭和22(1947)年	・北園を含んだ範囲で第13号名城公園として都市計画決定
昭和27(1952)年	・名古屋城跡「特別史跡」に指定
昭和28(1953)年	・名古屋城二之丸庭園「名勝」に指定
昭和31(1956)年	・名城公園基本計画作成
昭和32(1957)年	・名古屋城再建工事、起工式 ・北園の施設整備開始
昭和34(1959)年	・名古屋城天守閣再建
昭和39(1964)年	・名古屋城二之丸に愛知県体育館竣工
昭和40(1965)年	・市営地下鉄名城線市役所駅(現 名古屋城駅)開業
昭和46(1971)年	・市営地下鉄名城線名城公園駅開業
昭和59(1984)年	・「名古屋城博」で金鯪地上へ
昭和61(1986)年	・「堀川の大改修」が市政100周年記念事業に位置づけられる
昭和63(1988)年	・名城公園を主会場に第6回全国都市緑化なごやフェア「緑花祭なごや'88」開催。「オランダ風車」、「フラワープラザ」完成
平成元(1989)年	・「世界デザイン博覧会」名古屋城会場開催 ・日本の都市公園100選に指定
平成18(2006)年	・日本の歴史公園100選に指定
平成21(2009)年	・本丸御殿復元工事着手 ・フラワープラザに指定管理者制度導入

図表 2-3 名古屋城築城以降の名城エリアの主な沿革(～平成21(2009)年まで)

(参考)名古屋城ウェブサイト(名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所)
近世城郭の最高峰名古屋城(平成31年3月初版発行、名古屋城検定実行委員会)
「名古屋の公園100年のあゆみ」(平成22年3月発行、名古屋市)
「名城公園(北園)管理運営方針」(平成27年11月、名古屋市)

(2) 名城エリアの地域特性

国内屈指の城郭として国の特別史跡に指定される名古屋城では、特別史跡名古屋城跡保存活用計画に基づき、史跡の保存または活用を目的とした各種整備を進めています。また、年間を通じて様々な催事が行われ、国内外から多くの観光客が訪れる名古屋を代表する観光資源となっています。

北園は、四季折々の花や自然、歴史を感じ、スポーツやレクリエーションを楽しめる場所として多くの市民に親しまれており、名古屋城を望む美しい景観も大きな魅力となっています。また、災害時の広域防災拠点としての機能も有しています。現在、北園では再整備を実施しており、第一期再整備（整備範囲：北園北側と名古屋城との導線部）では令和8（2026）年のアジア・アジアパラ競技大会開催に向け、大勢の人が快適に利用できる空間づくりとして、IGアリーナと名古屋城間の遊歩道や子どもの広場等を整備しました。

また、本エリア内には、名古屋能楽堂やフラワープラザ、tonarino、金シャチ横丁（義直ゾーン、宗春ゾーン）等の多様な施設が立地し、平成26（2014）年には愛知学院大学、令和4（2022）年には名古屋造形大学が本エリア内に開設され、令和7（2025）年にはIGアリーナや、エスパシオ ナゴヤキャッスルが開業します。

IGアリーナの開業にあたり、本市では、本エリアを利用する多くの人々の安全性と快適性を確保するため、公共交通機関である名城公園駅のリニューアルや名城公園駅とIGアリーナ間の地下横断歩道の整備を実施しています。

また、本エリアにおける周辺の公共施設の整備としては、北園の第二期再整備や、名城公園周辺の道路整備、名古屋城水堀の西側に位置する辰之口における舟の運航に向けた船着場の整備、金シャチ横丁第二期整備等を予定しています。



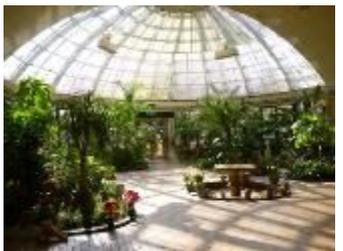
名古屋城



北園（子どもの広場）



名古屋能楽堂



フラワープラザ



tonarino



愛知学院大学



名古屋造形大学



金シャチ横丁



エスパシオ
ナゴヤキャッスル



IGアリーナ

平成26(2014)年	・愛知学院大学 名城公園キャンパス開設
平成29(2017)年	・tonarino 開業
平成30(2018)年	・金シャチ横丁(義直ゾーン、宗春ゾーン)開業 ・名古屋城天守閣閉館 ・名古屋城本丸御殿完成公開
令和4(2022)年	・名古屋造形大学 名城公園キャンパス開設 ・北園再整備(第一期)
令和7(2025)年	・IGアリーナの開業(予定) ・エスパシオ ナゴヤキャッスルの開業(予定)
令和8(2026)年	・名古屋城水堀における舟の運航開始(予定)
令和13(2031)年	・名古屋城一般公開・名城公園開園100周年

図表 2-4 近年の名城エリアの動き

コラム

■400年を超えて、城とともに育まれてきた名城エリア

築城の歴史と、尾張徳川家の歴代藩主が築いた歴史・文化は、その後の名古屋の芸どころの気風や食文化、モノづくり文化の発展に繋がり、現代に受け継がれています。北園はかつて尾張藩主の庭園として利用されていた場所であり、そこで焼かれていた「御深井焼」の窯跡等、貴重な歴史資源が残されています。

北園は、戦後いち早く名古屋市の中心部における総合公園として計画決定され、整備が行われてきました。芝生広場を中心に、おふけ池、野外ステージ、子どもの広場、花のみち(ランニングコース)、野球場等、市民や来訪者によって多目的に利用されています。

このように、名古屋城と北園を擁する名城エリアは、市民や来訪者にとって観光または憩いで訪れる場として親しまれています。

■名城エリアの自然環境

名城公園は花木の植栽、花壇や藤の回廊等、四季折々の花々を鑑賞することができます。また、桜の名所としても知られており、水堀沿いでは名古屋城と桜を望むことができます。

本エリアに存在する樹木や水辺空間は、都心における貴重な緑であり、市街地のクールスポットや、生物・植物の生息地としての機能を担っています。



名古屋城の水堀(西から)

(3) 名城エリアの現状と課題

① 名城エリアの現状把握

本エリアの現状把握を行うため、令和4年度～5年度にかけて各種調査を実施しました。

令和4年度は、本エリア内の現況把握のための調査や、先進事例調査を実施しました。

令和5年度は、利用者ニーズや本エリアの回遊性の実態を把握するとともに、本エリアにおける課題と望ましい取り組みの方向性を導くための調査を実施しました。

<令和4年度>

- ・現況把握のための調査（エリアの現況特性や利用者特性の調査、上位関連計画の整理、進行中・計画中の各種事業の整理）
- ・先進事例調査（城跡や観光地等における取り組み事例の整理）

<令和5年度>

- ・利用者ニーズ把握のためのアンケート調査（日本人観光客、外国人観光客、名古屋市民、名古屋城訪問経験のない日本人を対象に実施）
- ・利用者の移動実態調査（AIカメラ・Wi-Fiパケットセンサの設置による来訪者の流動の可視化・分析）
- ・観光案内サイン調査

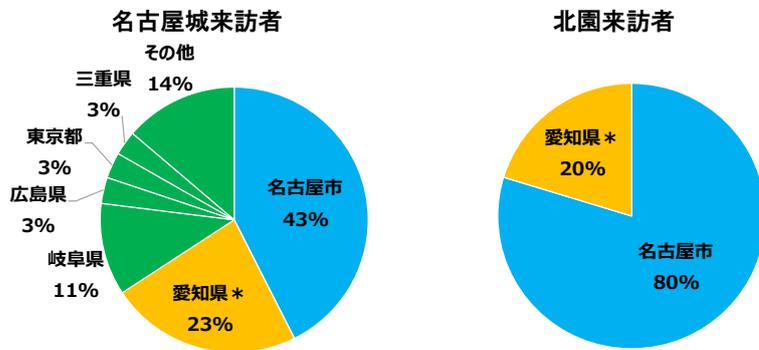
【主な調査結果】

◆名古屋城と北園の利用者特性が異なる

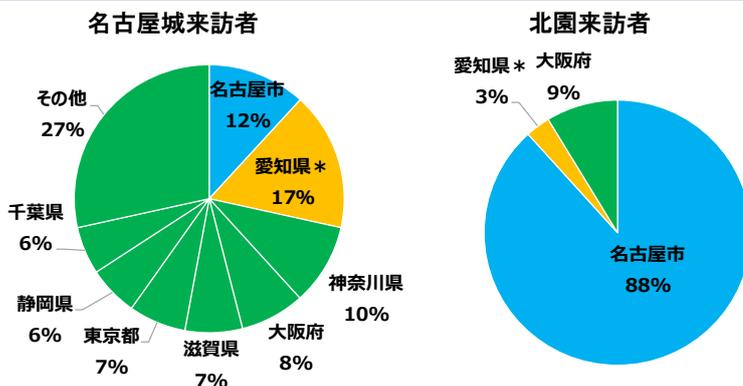
「KDDI Location Analyzer」を用いた調査の結果、名古屋城利用者は、催しの有無や季節によっても異なりますが、県外居住者が半数程度を占めています。ゴールデンウィーク期間は、県外居住者の割合が約7割と多くなっています。

一方、北園利用者は年間を通じて、名古屋市・愛知県居住者が主となっており、県外居住者の利用はほとんどありません。

2022年4月 名古屋城まつり開催日



2022年5月(ゴールデンウィーク)



※au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に個人を特定できない処理後集計。
 (データ提供元：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」)
 ※集計方法は全人口推計値を採用。
 (全人口推計値：ユーザー数に拡大倍率を掛け合わせて集計した値であり、より実際の通行人口に近い推計値)

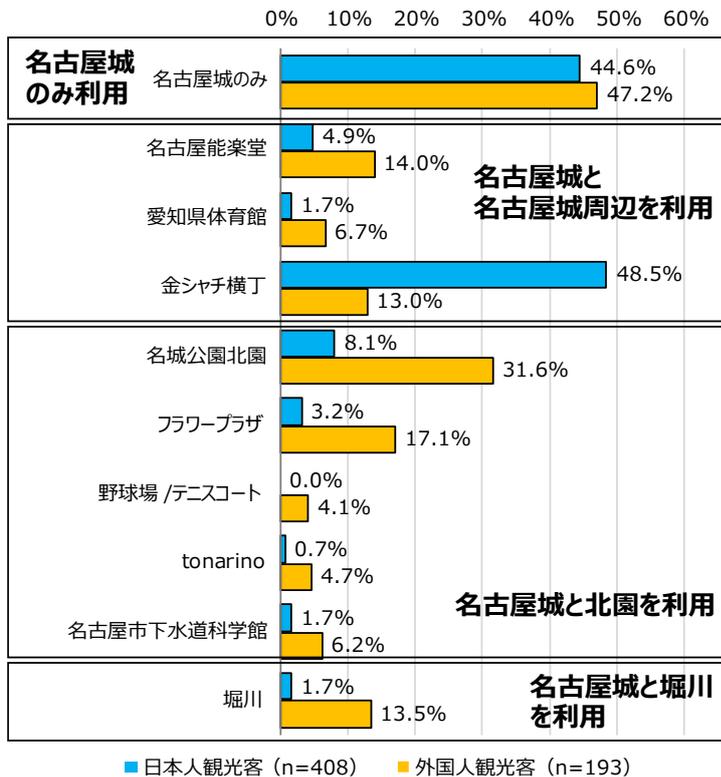
*いずれも「愛知県」は名古屋市を除く

図表 2-5 名古屋城と北園の来訪者特性

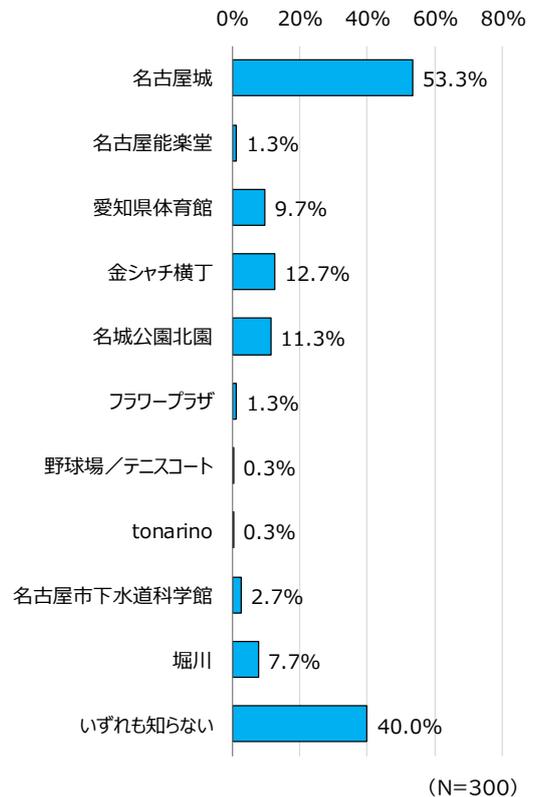
◆名古屋城と北園との繋がりが来訪者に意識されていない

利用者ニーズ把握のためのアンケート調査において、本エリア内施設の利用状況を尋ねたところ、日本人・外国人観光客ともに回答者の約半数が「名古屋城のみ」と回答しています。

また、名古屋城訪問経験のない日本人の方を対象として、本エリア内にある施設の認知度を尋ねたところ、名古屋城以外の認知度が総じて低いことが分かりました。



図表 2-6 名城エリア内施設の利用状況
※名城エリア(名古屋城、北園)を訪問している人を対象

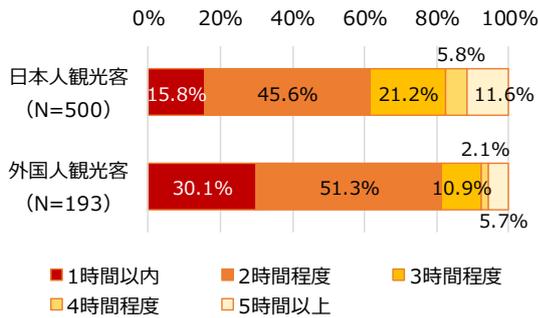


図表 2-7 名城エリア内施設の認知度
※名古屋城訪問経験のない東京・大阪・東海4県(愛知県(名古屋市除く)・岐阜県・三重県・静岡県)居住者を対象

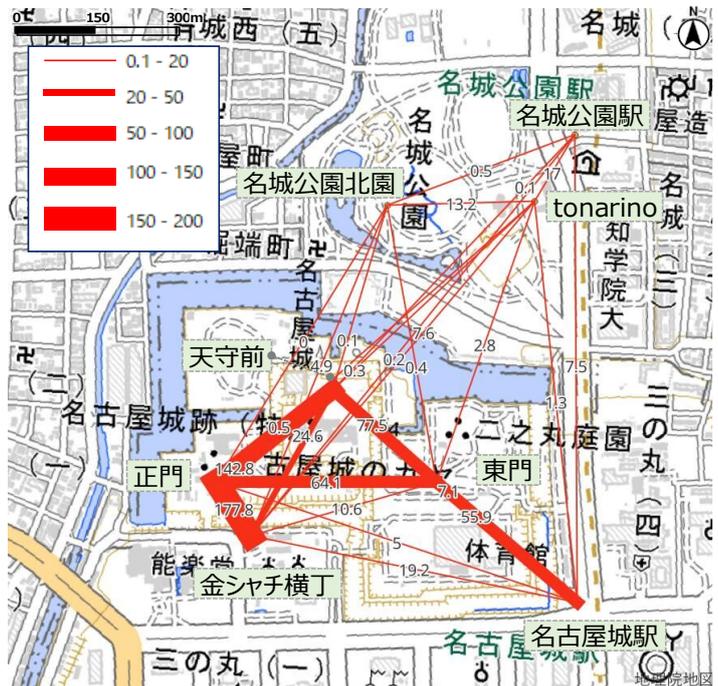
◆名古屋城と北園間の回遊性が低い

利用者ニーズ把握のためのアンケート調査において、実際に本エリア（名古屋城、北園）を訪れている日本人観光客・外国人観光客に対し、本エリアでの滞在時間を尋ねたところ、「2時間程度」が最も多くなっています。

AIカメラと Wi-Fiパケットセンサを用いた移動実態調査の結果では、名古屋城と北園間の移動量が少ないことから、名古屋城と北園との間で回遊性が低い現状となっています。また、観光案内サイン調査の結果からは、本エリア全体で一体感や統一感のあるデザインや情報発信がなされていないこと、回遊を促す情報が不足していることが分かりました。



図表 2-8 名城エリアでの滞在時間
※名城エリアを訪問している人を対象



図表 2-9 名城エリア内の移動実態調査

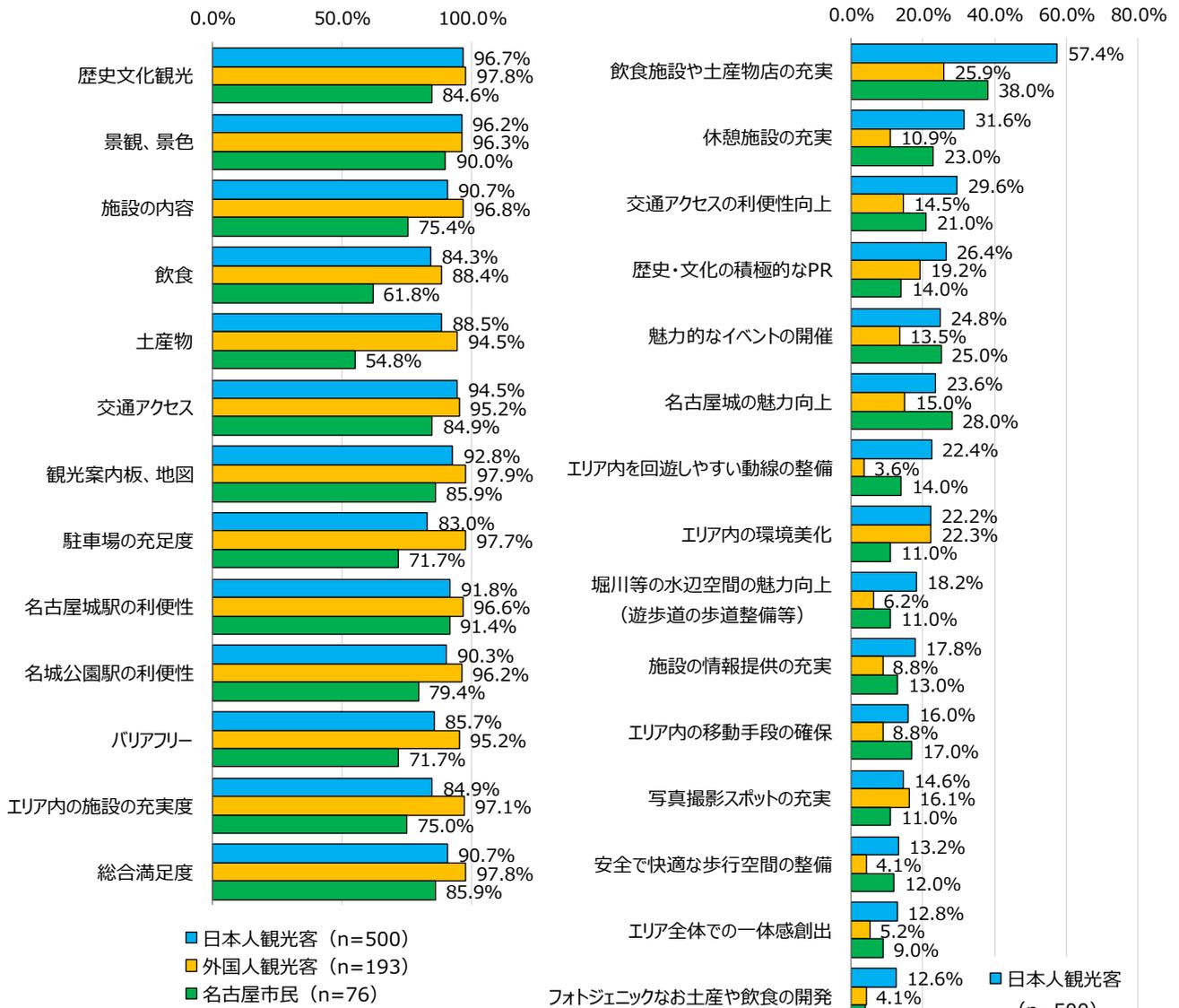
※令和5年9月～令和6年1月休日平均
(ソーシャルキャスルマーケット開催日除く)

◆観光客、市民の満足度は高い

名城エリアの魅力向上には、飲食施設や土産物店の充実に対するニーズが最も高い

利用者ニーズ把握のためのアンケート調査において、本エリアでの観光の満足度を尋ねたところ、日本人・外国人観光客、名古屋市民ともに、満足度は総じて高い結果となりました。特に、「歴史文化観光」の満足度が高くなっています。同調査において、本エリアをより魅力的にするために必要なことを尋ねたところ、本エリアの魅力向上に対しては、「飲食施設や土産物店の充実」のニーズが高くなっています。

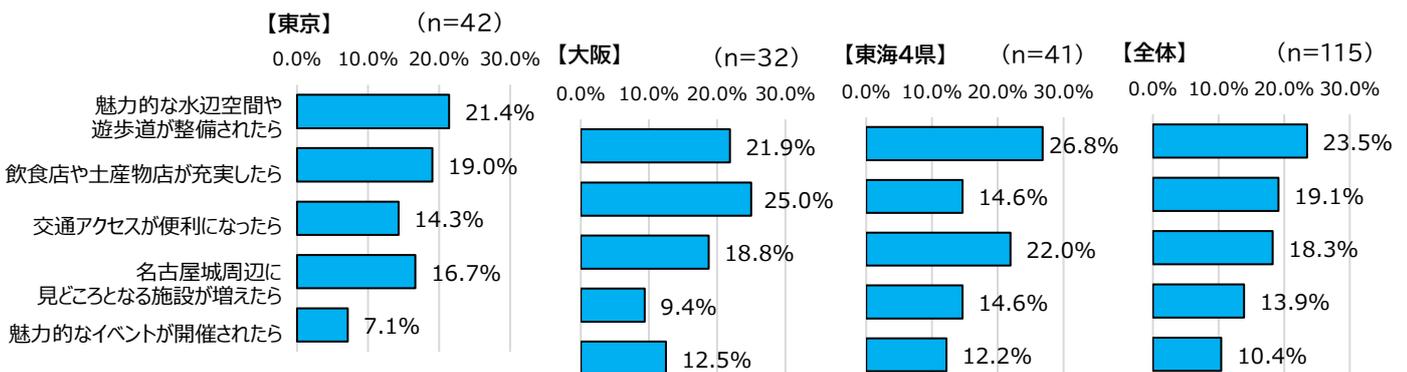
一方、名古屋城訪問経験のない日本人の方に対し、どのような状況になったら本エリアに行ってみたいかを尋ねたところ、「魅力的な水辺空間や遊歩道が整備されたら」が最も多い結果となりました。



図表 2-10 名城エリア観光の満足度

※名城エリア(名古屋城、北園)を訪問している人、名古屋市民を対象
 ※各項目について、満足、やや満足、やや不満、不満、わからないのいずれかで評価
 ※上のグラフは「わからない」を除いた「満足」(満足+やや満足)の割合

図表 2-11 名城エリアをより魅力的にするために必要なこと
 ※名城エリアを訪問している人、名古屋市民を対象



図表 2-12 名城エリアがどのような状況になったら行ってみたいか(上位5回答)

※名古屋城訪問経験のない日本人を対象

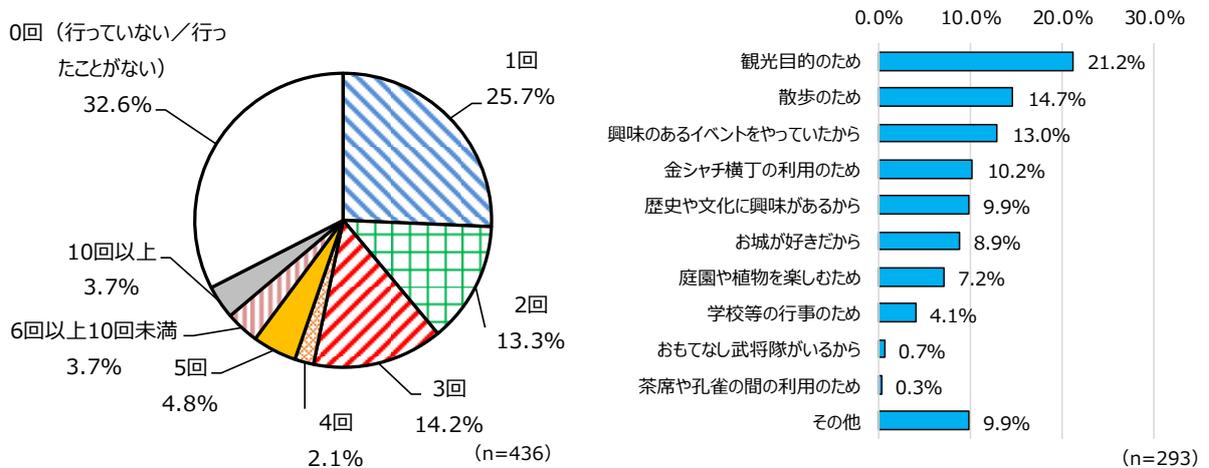
② 名城エリアの市民の利用状況

令和6年度に名古屋市民を対象に行われたネット・モニターアンケート(有効回収数436人)を基に、本エリアの市民の利用状況を整理しました。

【主な調査結果】

◆名古屋城の利用状況

過去3年間に名古屋城(金シャチ横丁を含む)を訪問した回数は「1~10回以上」と答えた人が67.4%を占め、「0回(行っていない/行ったことがない)」は32.6%でした。主な訪問目的は、「観光目的のため」(21.2%)が最も多く、次いで、「散歩のため」(14.7%)であり、日常に根差した活用も見られますが、主目的は「観光」となっています。

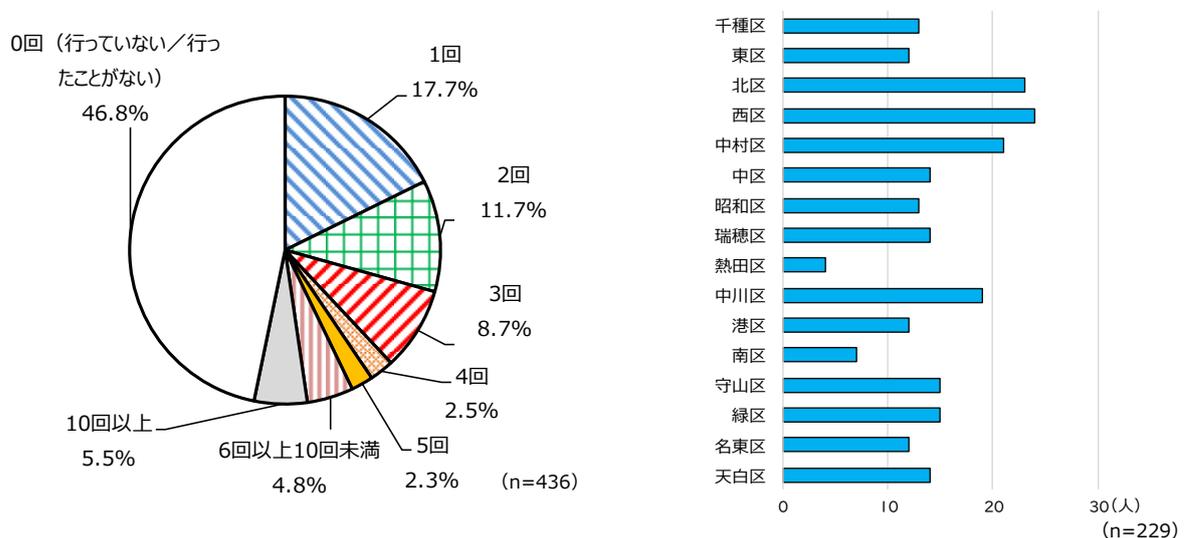


図表 2-13 名古屋城の過去3年間の訪問回数(左)と訪問理由(右)

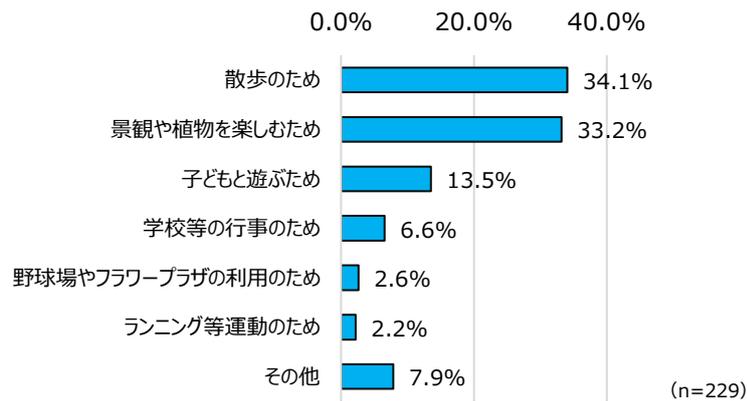
※訪問理由は、訪問回数1回以上と回答した方を対象(単一回答)

◆北園の利用状況

過去3年間に北園を訪問した回数は「1~10回以上」と答えた人が53.2%と半数を占め、過去3年間で10回以上利用した人も一定数おり、その割合は近隣の区にお住まいの方が多いため、北園は近隣にお住まいの市民において繰り返し利用される人が多くなっています。主な訪問目的は、「散歩のため」(34.1%)が最も多く、次いで、「景観や植物を楽しむため」(33.2%)、「子どもと遊ぶため」(13.5%)であり、日常利用が多くなっています。



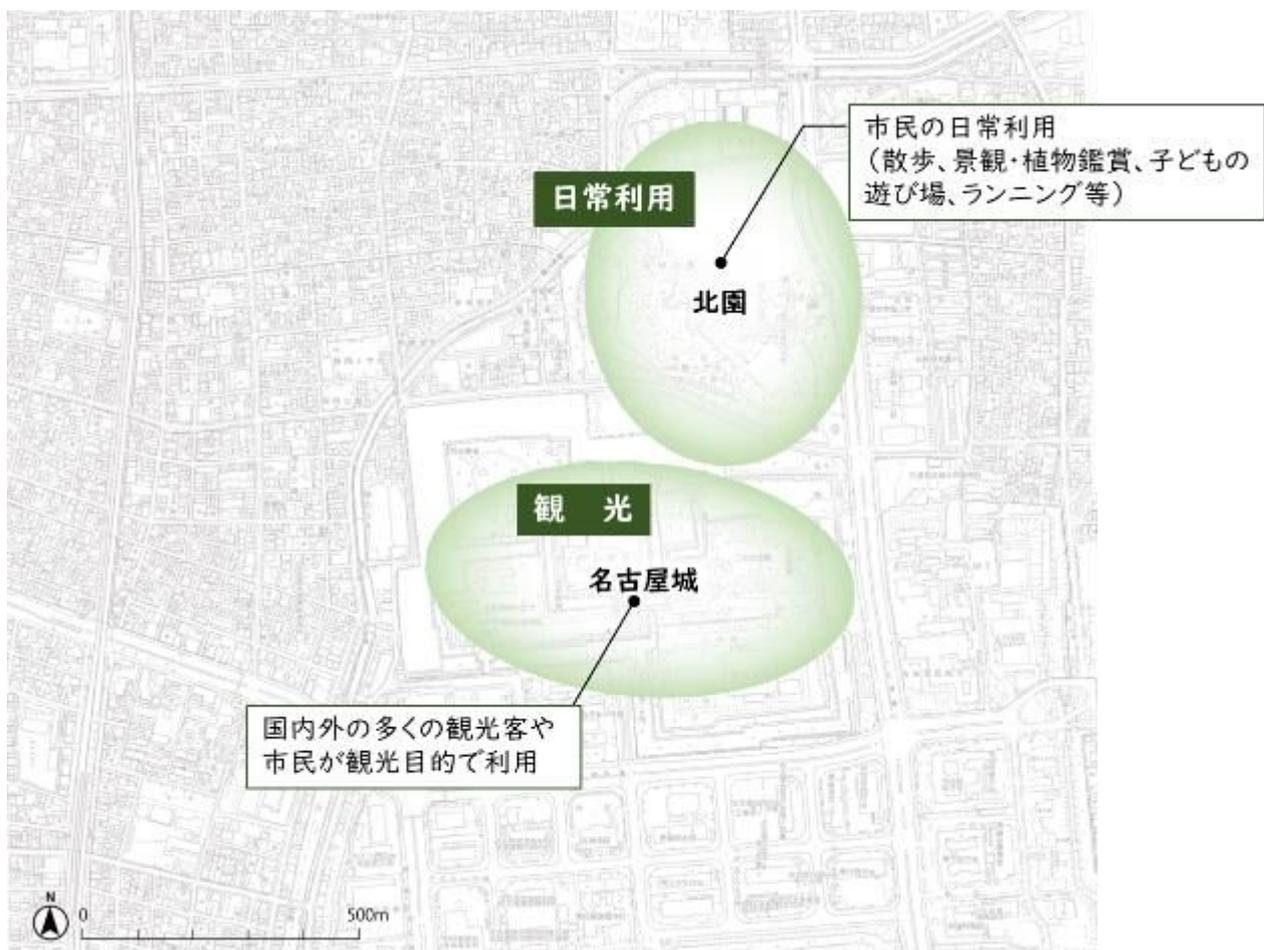
図表 2-14 北園の過去3年間の訪問回数(左)、訪問者数の区別集計(右)



図表 2-15 北園の訪問理由

※訪問理由は、訪問回数1回以上と回答した方を対象(単一回答)

このように、市民にとって名古屋城は観光目的で訪れる場所、北園は日常利用を目的として利用する場所となっています。



図表 2-16 名古屋城と北園の利用目的

③ 現状を踏まえた名城エリアの課題

これまでの調査結果や、庁内関係部局による会議等を踏まえ、本エリアの課題を次のとおり整理しました。

課題1. 名城エリア全体の魅力向上と活性化

- 利用者ニーズを踏まえ、本エリア内の個々の施設や水辺・歩行者空間の魅力の更なる向上が必要です。
- 北園や堀川等の個々の施設においては、核となる名古屋城との歴史的な繋がりや名古屋城と近接する立地特性を活かして、改めて歴史・文化の発掘や磨き上げを行うことにより、本エリア全体で魅力を高めていくことが必要です。
- 北園においては、市民の日常的なレクリエーション利用が多く、市民と来訪者双方にとって、憩いと交流を生み出す居心地の良い空間となるよう、本エリアの価値を高めていくことが必要です。
- さらに、IGアリーナの整備により、コンサート、イベント、スポーツ等を楽しめるエンターテインメント拠点が形成されることを活かすとともに、隣接する大学と連携した取り組みを通じて、本エリア全体のにぎわいの創出等に繋げていくことが必要です。

課題2. 名城エリア全体の回遊性の向上

- 令和6年度に実施した本エリアの回遊性を高めるための試行的な取り組みの結果、フォトラリーやランニングイベントの参加者からは、本エリアを回遊したことにより本エリアへの関心が高まったという意見や、本エリアの景色や見どころ等、新たな発見があったという意見が多く得られました。本エリア全体の回遊性の向上を図ることは、本エリアの認知や関心を高め、再訪意識の醸成にも繋がることから期待できます。
- 一方で、観光を目的とした利用が多い名古屋城と、日常利用が多い北園とでは施設の性質が異なることや、物理的に距離が遠いこと等が起因して、名古屋城と北園の繋がりが感じられず名古屋城と北園間の回遊はほとんどないのが実態となっています。
- 本エリアが有する魅力に触れてもらう機会を増やすためには、個々の施設の魅力向上とともに、本エリア全体での統一感や一体感に配慮した観光案内サインの整備等、回遊性の向上に向けたハード・ソフト両面からの取り組みが必要です。
- 名古屋城、北園、IGアリーナとそれぞれ性質の異なる空間が境界部で分断される傾向にあることから、回遊の利便性を高めることが必要です。

課題3. 名城エリアにおける関係者間の連携強化

- 本エリアにおける施策や事業について、エリア内の一体的な視点に基づき、庁内関係部局の連携を深め、共通認識のもとで、本エリアとしてより効果的な取り組みを推進することが必要です。
- 本エリアに関わる民間事業者や大学関係者等とも連携し、本エリアにおける効果的な取り組みを共に検討するとともに、推進することが必要です。

課題4. 名城エリアへの来訪者数増加への対応

- IGアリーナの開業、名城公園の再整備、天守閣をはじめとする名古屋城の整備等により、来訪者の更なる増加が見込まれることから、本エリアに係るアクセス対策が必要です。
- IGアリーナの開業に伴い、道路の混雑や住宅地への流入等、IGアリーナ周辺における生活環境への影響が懸念されます。公共交通機関利用の周知徹底や周辺道路への入り込み防止等により、地域住民の安全確保と生活環境の保全が必要です。
- IGアリーナでの大規模なイベント開催時においては公共交通機関の相当な混雑が予想され、最寄り駅等における長時間の滞留や一般市民の利用への影響が懸念されることから、県や運営事業者と連携したハード・ソフト両面での対応が必要です。

課題5. 名古屋城三の丸地区・名古屋駅地区・栄地区等との連携

- 本市における観光を点から、線、面へと広げていくためにも、本エリアへの観光誘客にとどまらず、近隣エリアへの周遊へ繋げていく必要があります。
- 隣接する名古屋城三の丸地区や、都心部の名古屋駅地区、栄地区等との連携を図ることで、本エリアを起点とした市内周遊を促進し、観光消費の更なる増加に繋げていくことが必要です。

3. 名城エリアのあり方

(1) 目指すべき姿

名古屋城築城からの歴史と多様な魅力を 発信し続けるにぎわい拠点

名古屋城築城 からの歴史

- 名古屋城は260年余りにわたって尾張徳川家の居城となり、その城下町は活気とにぎわいに溢れ、祭りや芸ごと、食文化が発達し、現在の名古屋の文化を形成する礎となりました。
- また、現在の北園が位置する場所がかつて尾張藩主の庭園として造営され、堀川は築城に際して城下に必要な物資を運搬するための運河として開削された歴史があります。
- このように、本エリア全体が有する名古屋城築城からの歴史的な繋がりという共通性を活かしつつ、現在に至る唯一無二の歴史・文化を守り、活かし、発信します。

多様な魅力

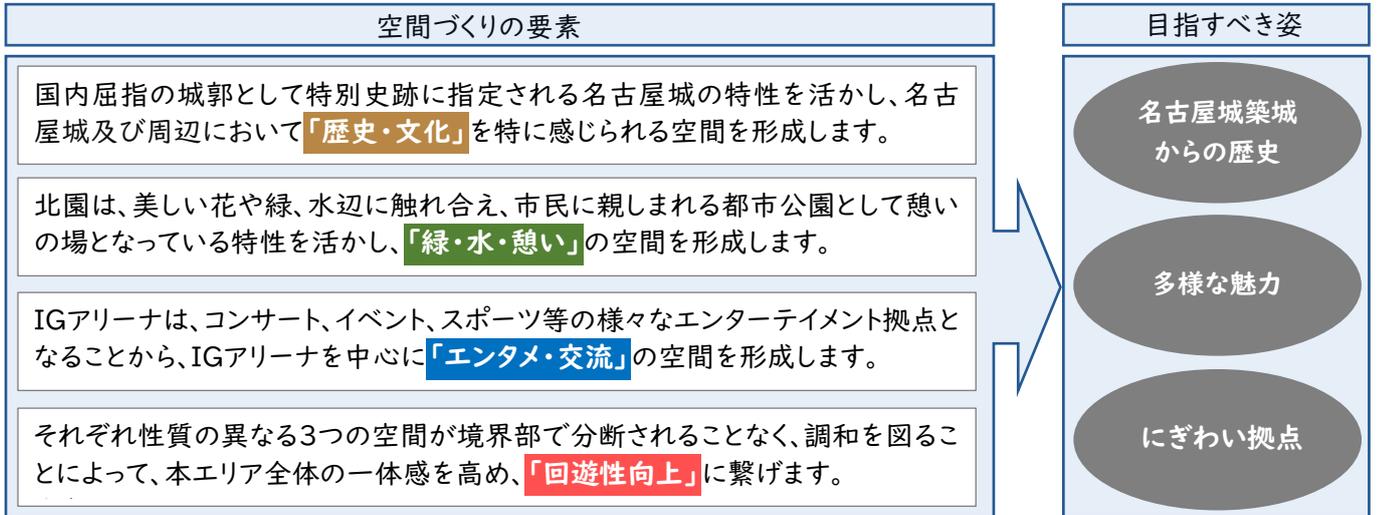
- 本エリアには名古屋城の水堀や堀川等の貴重な水辺空間、四季折々の花や自然を楽しめる公園、名古屋城を望む美しい景観等の日常的な憩いの空間が存在しています。
- また、複数の大学のキャンパス開設や複合的な便益施設である tonarino の開業に加え、IGアリーナやエスパシオ ナゴヤキャッスルの開業を控えるなど民間事業者等による環境整備も大きく動いています。
- こうした既存の魅力資源や新たな状況変化を活かし、水堀における舟運や名古屋城が映える景観形成等の取り組みを進めるほか、IGアリーナの開業によってもたらされる新たなエンターテインメント体験や、隣接する大学との連携等を通じて多様な魅力を創出し、発信します。

にぎわい拠点

- 名古屋城築城からの歴史・文化に触れる機会や場所を創出することで愛着や誇りを醸成するとともに、美しい景観や音楽、スポーツイベントなどの多様な魅力を楽しめるエリアの形成を図ります。
- さらに、市民や地域住民、学生といった地元・近隣の方々による日常的なにぎわいにより、観光客の共感と呼ぶことで、国内外から多くの観光客が訪れ、名古屋第一級の名所としてにぎわい拠点の形成を目指します。

【目指すべき姿の実現に向けた空間づくり】

各施設の特徴や今後の施設整備計画、利用者ニーズ等を踏まえ、本エリアにおける目指すべき姿の実現に向けた空間づくりを進めます。



図表 3-1 名城エリアにおける空間づくり

(2) にぎわい拠点形成に向けた方向性

本エリアが目指す姿の実現に向け、にぎわい拠点を形成するための方向性を以下に示します。

なお、にぎわい拠点の形成にあたっては、本市と本エリアで活動される民間事業者、大学関係者が相互に連携を図りながら、にぎわい拠点化を目指します。

方向性1 歴史・文化を基軸に多様な魅力を生み出す空間づくり

- 本エリアの核となる名古屋城築城からの歴史・文化資源を改めて発掘し、それを活かした環境づくりや国内外の多くの人を惹きつけられるよう「歴史的ストーリー」として発信するなど、名城エリア全体において歴史・文化を基軸とした取り組みを行うとともに、水辺空間の活用等による往時を体感できる魅力的なおもてなしの空間づくりを進めます。
- 北園においては、市民等が散策やランニングを楽しむ憩いと安らぎの場としての機能を維持しつつ、IGアリーナの整備により音楽やスポーツといったエンターテインメントが新たな魅力として加わることを踏まえ、本エリアの更なる活性化や多様な利用者がそれぞれに楽しめるにぎわいのある空間づくりを進めます。また、本エリアで活動する民間事業者や大学関係者との協働により、新たな魅力とにぎわいの創出を図ります。

方向性2 名城エリア全体で回遊と一体感を生み出す仕掛けづくり

- 北園からの名古屋城の視認性の向上や統一的なデザインによる施設・歩道・観光案内サイン等の整備、本エリア全体でのイベントの開催等、回遊性向上のための取り組みをハード・ソフト両面から総合的に進め、本エリアとしての一体感を創出します。
- シェアサイクル、舟運等の多様な移動手段の活用に係る検討・試行導入や歩いて楽しい空間づくり等により、本エリア全体の回遊性を高めます。

方向性3 持続可能なにぎわい拠点形成のための体制づくり

- 本エリアを持続可能なにぎわい拠点とするため、庁内関係部局及び民間事業者等との連携を図ります。
- 本エリアに関わる公・民・学による組織体制を構築し、関係者との情報の共有や、相互発信、連携したイベントの開催等を行い、目指すべき姿の実現に向けて取り組みます。
- 民間事業者・大学関係者は、公・民・学で構成するにぎわい拠点形成に向けた組織に参画するとともに、各主体の強みを活かした取り組みを展開します。

方向性4 来訪者数の増加に対するアクセス対策

- IGアリーナや、エスパシオ ナゴヤキャッスルの開業、名城公園の再整備、天守閣をはじめとする名古屋城の整備等、来訪者の更なる増加が見込まれる事業が予定されることから、来訪者の増加に伴う本エリアへのアクセスについて、整備の状況に応じて段階的に検討していきます。
- IGアリーナへの来場者については、地下横断歩道の整備や、県や運営事業者が進める人流・交通対策への協力などにより、利便性や安全性の向上を図ります。

方向性5 市内周遊の促進に向けたエリア間の連携強化

- 隣接する名古屋城三の丸地区や、都心部の名古屋駅地区、栄地区、歴史的にも深い繋がりを有する熱田・白鳥エリアとの連携を図ることで、一層の観光誘客を図るとともに、本エリアから隣接する近隣エリア等へ観光客を誘導します。
- 名古屋城三の丸地区と連携して名古屋城の歴史的価値の共有や市民をはじめ来訪者が歩きたくなるウォークアブルな空間の形成を進めるとともに、名古屋駅地区や栄地区等との間を繋ぐ交通ネットワークと連携して、市内周遊の促進を図ります。
- 名古屋城三の丸地区等の近隣エリアからも、名古屋城(天守、石垣、堀等)が美しく望めるような環境を整えます。
- 本エリア周辺には商店街が点在しており、本エリアとの回遊性を高めることで、地域の活性化やにぎわいの創出に繋がります。

4. 名城エリアのにぎわい拠点形成に向けた取り組み

(1) 主な取り組み

前項の目指すべき姿を踏まえつつ、庁内関係部局における取り組み方針及び主な取り組みを方向性ごとに示します。

方向性Ⅰ

歴史・文化を基軸に多様な魅力を生み出す空間づくり



【取り組み方針】 1-1 歴史・文化を活かした空間づくり

- ハード・ソフト両面において名古屋城にまつわる歴史的な視点を取り入れることや、歴史・文化との調和を図ることに留意し、来訪者が歴史・文化を感じられる空間づくりを本エリア全体で進めます。
- 北園においては、第二期再整備において、令和13(2031)年の名城公園開園100周年に向け、名古屋城の整備状況やIGアリーナの利用・運営の状況を踏まえ、両者との連携を図りながら一体感があり魅力的な整備を進めます。名古屋城にまつわる歴史・文化を感じられる環境整備についても段階的に検討します。
- 本エリア内の歩行空間において、例えば、舗装に歴史的背景に調和する色彩や素材を用いるなど、歴史・文化との調和に配慮することで、市民や来訪者が歩きたくするような空間の形成を進めます。

【取り組み方針】 1-2 名古屋城及び周辺の魅力向上

- 名古屋城及び周辺施設において、歴史・文化を軸に魅力向上を図るとともに、その魅力を発信し、国内外からの多くの観光客や市民の来訪に繋がります。
- 名古屋城では、天守閣や二之丸庭園の整備をはじめ、城内の植栽管理や、サイン看板、園路等の改修を進めます。
- 金シャチ横丁の第二期整備や能楽堂における伝統芸能の魅力発信等を通じて、名古屋城及び周辺の更なる魅力向上を図ります。
- 市民をはじめ、来訪者が何度も訪れたいような、歴史・文化を活かした魅力的なイベントを実施するなど、本エリアで活動する民間事業者や大学関係者と連携し、にぎわい創出に取り組みます。

【取り組み方針】 1-3 北園及び周辺の魅力向上

- 北園において散歩やランニング等市民の日常利用の更なる促進や、天守閣や石垣等の眺望景観の確保を行うなど、多様な魅力創出に取り組みます。
- 北園の第二期再整備をはじめ、プロスポーツチームの拠点の盛り上げ、名城庭球場の整備等により、スポーツや憩いの場としての機能の充実を図ります。
- IGアリーナの整備により音楽ライブ等のエンターテインメントが新たな魅力として加わることを踏まえ、本エリアで活動する民間事業者や大学関係者と連携し、新たな魅力の創出に繋がります。

【取り組み方針】 1-4 快適で魅力的な空間づくり

- 名古屋城の水堀や堀川を活用した舟運の実施や、水辺を身近に感じながら散策・滞在できるような魅力的な水辺空間を創出します。
- 堀川においては、河川整備や水質浄化を推進することで、より快適な空間を形成します。
- 本エリア内の大学関係者との協働により、アートやデザイン等の視点から魅力的な空間づくりに取り組み、名城エリアの価値の向上を図ります。



【取り組み方針】 2-1 一体感を感じられる空間づくり

- 本エリア内の各所において名古屋城（天守、石垣、堀等）の美しい眺望景観を確保することや、眺望スポットを整備することにより、名古屋城との一体感を感じられる空間づくりを進めます。
- 名城公園周辺の道路空間の再整備を進めるとともに、名古屋城と北園間の東西道路のあり方や、大津通の道路空間における、更なる魅力向上に繋がる道路のあり方について検討します。
- 本エリアで活動する民間事業者や大学関係者と連携し、名古屋城と北園でのイベントの同時開催や共通テーマによるイベント開催等について検討し、実施します。

【取り組み方針】 2-2 回遊性の向上

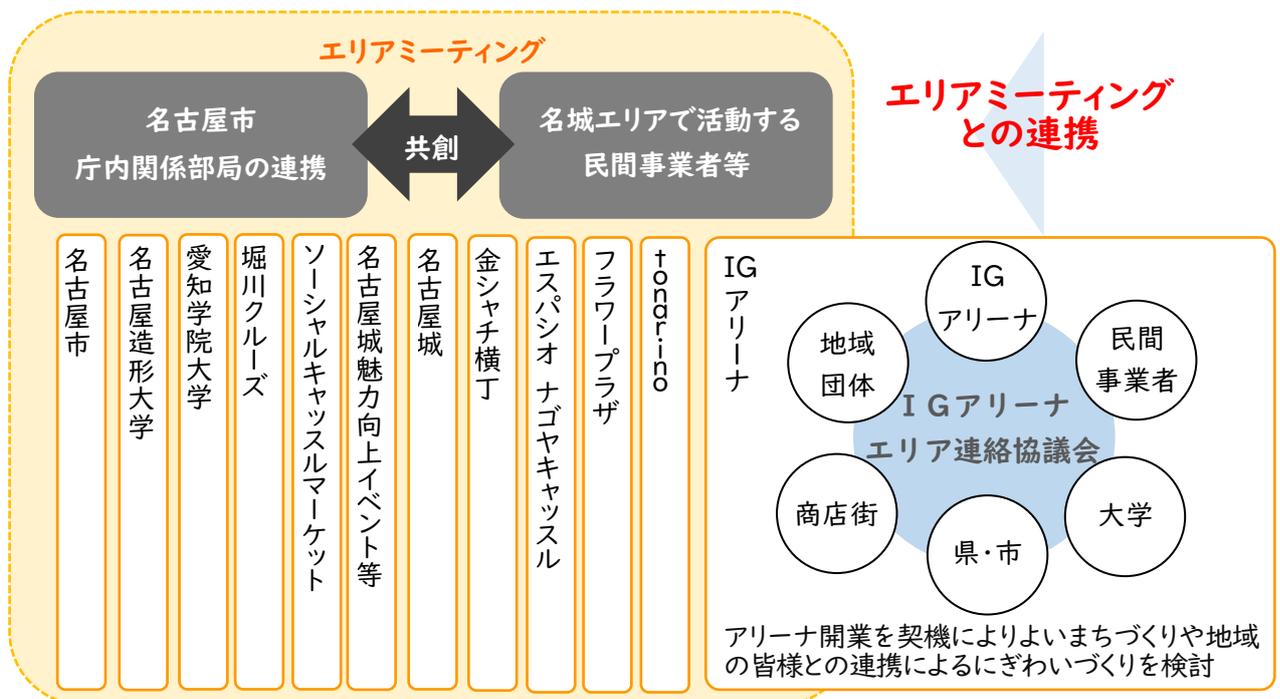
- 統一的な観光案内サインの整備や城内のサイン改修により、本エリア全体の回遊性向上を図ります。
- 本エリア内の歩行空間について、城内園路や、北園、道路空間の再整備により市民をはじめ来訪者が歩きたくなる空間を形成します。
- 本エリア内の新たな移動手段（パーソナルモビリティ、グリーンスローモビリティ等）の導入について検討します。
- 名城エリアで活動する民間事業者や大学関係者と連携し、回遊性を高めるイベントや回遊ルート・マップの制作等、回遊性向上に繋がる取り組みを検討し、実施に繋がります。
- 名古屋城駅、名城公園駅において、名城エリア全体の統一感に配慮しつつ、国内外の観光客にとって、分かりやすい案内や装飾等に努めます。

【取り組み方針】 3-1 体制づくり

- 本基本構想に基づき、市内関係部局が連携し、本エリアに関連する事業を展開することで更なる観光誘客を推進します。
- 本エリアの関係者による情報共有・発信を持続的に実施するための体制構築のため、令和6年度に立ち上げたエリアミーティングを継承し、本市と本エリアで活動する民間事業者・大学関係者との定期的な意見交換の場を設け、公・民・学による取り組みや民間主体による取り組み等について協議・調整を図ります。
- IGアリーナ、地域団体、商店街、民間事業者、大学関係者、行政機関で構成される「IGアリーナエリア連絡協議会」との情報共有・連携を深め、にぎわい創出に向けた効果的・効率的な取り組みを推進します。

【取り組み方針】 3-2 民間事業者、大学関係者との連携

- 本エリアのにぎわい拠点形成に繋がる情報を集約し、市内外からの誘客に向けたプロモーションの手法を検討します。
- 民間事業者においては、にぎわい拠点形成を担う主体として、本エリアの魅力向上に資する事業の展開や、にぎわい・交流を生み出すイベントの運営、地元名古屋の食・モノ・文化の提供・発信、音楽やスポーツを軸とした新たなエンターテインメントの創出等、各事業者の強みを活かして関係者間で連携して取り組みます。
- 大学関係者においては、にぎわい拠点形成に向けた公・民・学の取り組みへの参画をはじめ、本エリアの回遊コースや観光案内サインのデザイン検討など、学生の視点を活かした本エリアの魅力向上に資する取り組みに協力します。



図表 3-2 体制図



【取り組み方針】 4-1 名城エリアのアクセス検討

- IGアリーナの開業や、名城公園の再整備、天守閣をはじめとする名古屋城の整備等が行われている本エリアについて、施設開業等を見据え、必要なアクセス対策について、庁内関係部局と検討・調整を行いながら対応を進めます。

【取り組み方針】 4-2 IG アリーナとの連携調整

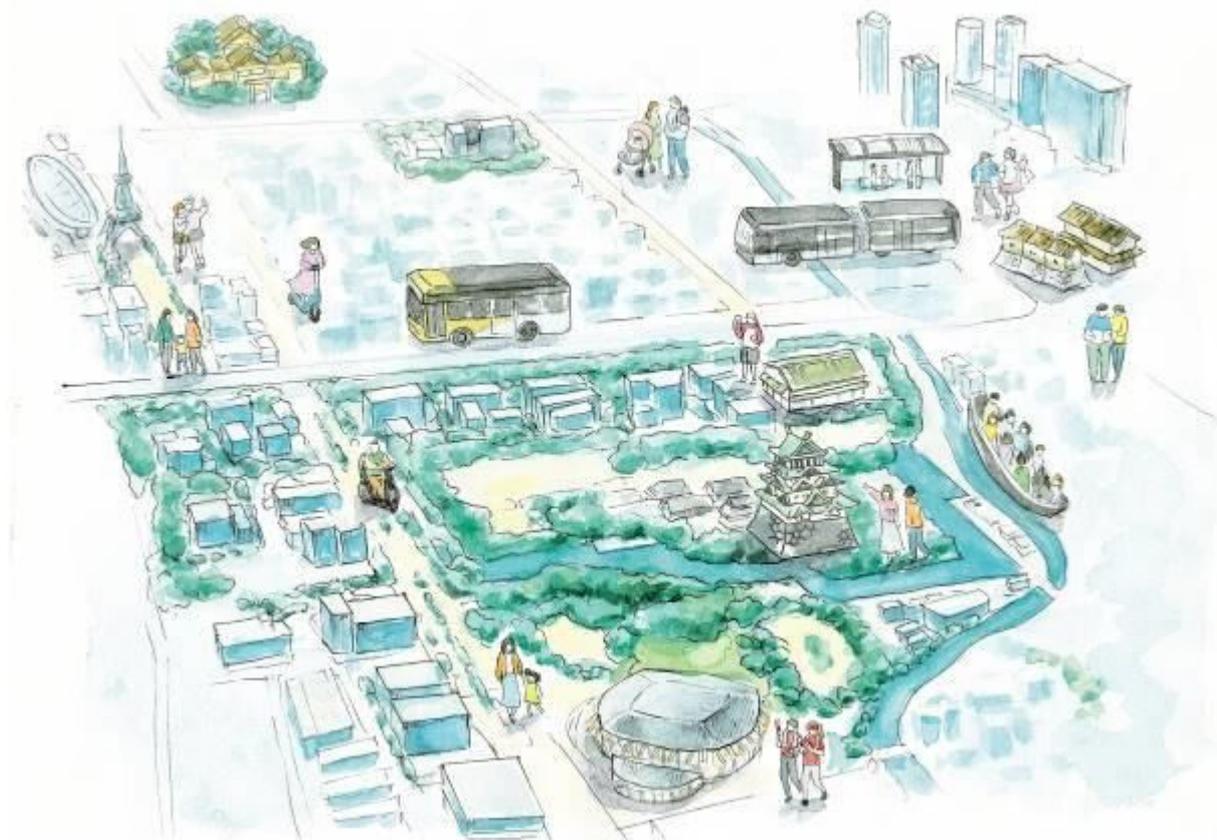
- IGアリーナの開業に伴い増加する人流・交通対策として、県や運営事業者と連携し、公共交通機関の利用の周知徹底を図り、周辺道路の混雑緩和を進めます。
- 県や運営事業者と連携し、IGアリーナでのイベント開催時には周辺住宅地への入り込み防止やゴミ捨て防止を図るなど、近隣の生活環境や公園施設への影響が出ないように対策を進めます。
- IGアリーナでのイベント開催時における公共交通機関への影響等を踏まえた地下鉄増便等の交通対策を行うとともに、近隣の生活環境や公園施設への影響・対策について調整を図ります。

【取り組み方針】 4-3 名城公園駅の利便性向上

- IGアリーナ等の開業に伴い増加する地下鉄利用者が快適にご利用いただけるよう、名城公園駅においてリニューアル工事を進めます。
- 名城公園駅に設置する休憩スペースについて、隣接する大学と連携して、家族連れの利用者がくつろげる空間のデザインを施し、親子で座れるベンチを設置するなど快適な空間をつくれます。

【取り組み方針】 4-4 道路対策

- IGアリーナの開業に伴う来訪者数の急増やにぎわい拠点化に向けた取り組みによる恒常的な観光客誘致に対応するため、地下横断歩道の整備や名城エリアの周辺道路において、円滑な自動車の通行ができるよう対策を検討します。



【取り組み方針】 5-1 周遊性の向上

- 隣接する名古屋城三の丸地区をはじめとした周辺エリアとの連続性と面的な繋がりに留意しながら、本エリアを訪れる市民をはじめ来訪者が歩きたくなるウォークブルな空間を形成することを検討します。また、文化のみちなど周辺エリアとの結びつきを強化し、歴史的な背景を活かした物語性のある回遊ルートを形成するなどの取り組みを推進します。
- 都心部の名古屋駅地区や栄地区との間で相互に観光誘客を図るため、「なごや堀川クルーズ」や名古屋観光ルートバス「メーグル」、新たな路面公共交通システム「SRT」との連携を進めます。
- 本エリアに関わる民間事業者や、大学関係者等の意見を聞きながら、本エリアと周辺地域との繋がりを強め、回遊性を高めていくための取り組みを検討し、地域の活性化やにぎわいの創出に繋がります。
- 名古屋城と並んで観光の核となる熱田神宮を擁する熱田・白鳥エリアはじめ、歴史的に深い繋がりがあるエリアとの周遊性の向上に向けた取り組みを推進します。

(2) 将来イメージ

本エリアのにぎわい拠点形成に向けた取り組みの将来イメージを示します。

方向性1 歴史・文化を基軸に多様な魅力を生み出す空間づくり

主な箇所	取り組み方針
エリア全域	1-1 歴史・文化を活かした空間づくり
①	1-2 名古屋城及び周辺の魅力向上
②	1-3 北園及び周辺の魅力向上
③	1-4 快適で魅力的な空間づくり



方向性2 名城エリア全体で回遊と一体感を生み出す仕掛けづくり

主な箇所	取り組み方針
エリア全域	2-1 一体感を感じられる空間づくり
エリア全域	2-2 回遊性の向上

方向性3 持続可能なにぎわい拠点形成のための体制づくり

主な箇所	取り組み方針
—	3-1 体制づくり
—	3-2 民間事業者、大学関係者との連携

方向性4 来訪者数の増加に対するアクセス対策

主な箇所	取り組み方針
エリア全域	4-1 名城エリアのアクセス検討
④	4-2 IGアリーナとの連携調整
⑤	4-3 名城公園駅の利便性向上
エリア全域	4-4 道路対策

方向性5 市内周遊の促進に向けたエリア間の連携強化

主な箇所	取り組み方針
名古屋駅地区 栄地区 名古屋城三の丸地区 等	5-1 周遊性の向上



5. スケジュールイメージ

将来像の実現を図るための取り組みについて、名古屋城一般公開・名城公園開園100周年となる令和13(2031)年までのスケジュールイメージを以下のとおり示します。

方向性	取り組み方針	関係局	令和6年～	令和13年～
方向性1 歴史・文化を 基軸に多 様な魅力 を生み出す 空間づくり	歴史・文化を 活かした空間づくり	緑政土木局	北園再整備 道路環境整備	北園再整備(第二期) 道路環境整備(第二期)
	名古屋城及び 周辺の魅力向上	観光文化交流局	天守閣の木造復元や二之丸庭園の保存整備等 金シャチ横丁第二期整備 館楽堂を拠点とした伝統芸能の魅力発信 公民連携によるにぎわい創出の取り組み	
	北園及び周辺 の魅力向上	スポーツ市民局 観光文化交流局 緑政土木局	名城庭球場 機能向上 北園再整備	プロスポーツチームの拠点の盛り上げ 北園再整備(第二期) 公民連携による新たな魅力創出の取り組み
	快適で魅力的 な空間づくり	観光文化交流局 緑政土木局	水堀における 舟運事業	水堀における舟の運航 堀川の河川整備、魅力的な水辺空間づくり
方向性2 名城エリア 全体で回 遊と一体感 を生み出す 仕掛けづくり	一体感を感じら れる空間づくり	観光文化交流局 緑政土木局	名古屋城の美しい眺望景観の確保、道路空間の再整備 名古屋城と北園でのイベントの同時開催や 共通テーマによるイベント開催等の検討	
	回遊性の向上	観光文化交流局 緑政土木局	サインの統一、歩きたくなる歩行空間、移動手段の充実の検討 回遊性を高める取り組みの検討、実施	
方向性3 持続可能な にぎわい拠 点形成のた めの体制づくり	体制づくり	観光文化交流局	庁内関係部局の連携 民間事業者と大学関係者との 定期的な意見交換、協働体制づくり	
	民間事業者、大 学関係者との 連携	観光文化交流局	公民連携によるにぎわい創出の取り組み	
方向性4 来訪者数の 増加に対す るアクセス 対策	名城エリアのア クセス検討	観光文化交流局 緑政土木局	アクセス対策について、庁内関係部局と検討・調整	
	IGアリーナとの 連携調整	総務局 観光文化交流局 緑政土木局 交通局	人流・交通対策の継続	
	名城公園駅 の利便性向上	観光文化交流局 交通局	名城公園駅 リニューアル	名古屋城駅、名城公園駅の利便性向上の検討
	道路対策	緑政土木局	名城公園周辺道路の渋滞対策 名城公園地下横断歩道整備	
方向性5 市内周遊の 促進に向けた エリア間の 連携強化	周遊性の向上	観光文化交流局 住宅都市局 緑政土木局	名古屋城三の丸地区・名古屋駅地区・栄地区等との 連携のための取り組みの検討 (名城エリアでのウォークラブルな空間形成、「SRT」との連携等)	

名古屋城築城からの歴史と多様な魅力を発信し続けるにぎわい拠点の形成

市主体

名城エリアで活動する民間事業者や大学関係者と協働
(民間等主体)

資料編 基本構想の策定経過

(1) プロジェクトチーム・ワーキンググループ

- ① 名城エリアを名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツ拠点にするための総合的対策
プロジェクトチーム名簿

区分	役職
会長	観光文化交流局・緑政土木局担当副市長
副会長	観光文化交流局観光交流部長
//	緑政土木局路政部長
委員	総務局総合調整部長
//	スポーツ市民局スポーツ推進部長
//	観光文化交流局文化歴史まちづくり部長
//	観光文化交流局名古屋城総合事務所長
//	住宅都市局まちづくり企画部長
//	住宅都市局都心まちづくり部長
//	緑政土木局道路部長
//	緑政土木局河川部長
//	緑政土木局緑地部長
//	交通局企画財務部長
//	交通局電車部長
オブザーバー	北区区政部長
//	西区区政部長

② 名城エリアを名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツ拠点にするための総合的対策プロジェクト観光需要掘り起こしワーキンググループ名簿

区分	役職
事務局長	観光文化交流局観光交流部担当課長（観光に係る名古屋城の活用）
構成員	総務局企画部企画課長
//	スポーツ市民局スポーツ推進部スポーツ戦略課長
//	観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課長
//	観光文化交流局名古屋城総合事務所管理活用課長
//	住宅都市局担当課長（企画調整）
//	住宅都市局都心まちづくり開発部担当課長（三の丸まちづくり）
//	緑政土木局担当課長（企画調整）
//	緑政土木局路政部道路利活用課長
//	緑政土木局河川部担当課長（堀川総合整備）
//	緑政土木局緑地部緑地維持課長
//	緑政土木局緑地部緑地事業課長
//	交通局電車部駅務課長
//	北区区政部地域力推進課長
//	西区区政部地域力推進課長

③ 名城エリアを名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツ拠点にするための総合的対策プロジェクト総合的なアクセス対策ワーキンググループ名簿

区分	役職
事務局長	緑政土木局路政部道路利活用課長
構成員	総務局総合調整部総合調整課長
//	スポーツ市民局スポーツ施設課長
//	観光文化交流局観光交流部担当課長（観光に係る名古屋城の活用）
//	観光文化交流局名古屋城総合事務所管理活用課長
//	住宅都市局担当課長（企画調整）
//	緑政土木局担当課長（企画調整）
//	緑政土木局道路部道路建設課長
//	緑政土木局道路部担当課長（名城公園地下横断歩道）
//	緑政土木局緑地部緑地管理課長
//	交通局企画財務部担当課長（企画調整）
//	交通局電車部電車運転課長

④ 開催概要

【令和4年度】

開催日	主な議題
名城PT	
R4.8.30	【第1回名城PT会議】 名城エリアを名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツ拠点にするための総合的 対策について及び対策検討組織について
観光需要掘り起こしWG・総合的なアクセス対策WG	
R5.1.18	【第1回観光需要掘り起こしWG・第1回総合的なアクセス対策WG合同会議】 観光需要掘り起こしワーキンググループについて及び総合的なアクセス対策ワーキ ンググループについて等

【令和5年度】

開催日	主な議題
名城PT	
R5.5.24	【第2回名城PT会議】 令和4年度PT・WGの取り組み報告、令和5年度PT・WGの取り組み予定
R6.3.25	【第3回名城PT会議】 令和5年度WGの事業実施報告、令和6年度実施予定の事業内容
観光需要掘り起こしWG・総合的なアクセス対策WG	
R5.5.24	【第2回観光需要掘り起こしWG会議】 令和4年度PT・WGの取り組みについて及び令和5年度PT・WGの取り組み予定に ついて
R5.7.21	【第2回総合的なアクセス対策WG会議】 令和4年度取り組み内容、令和5年度事業内容、令和6年度事業計画
R5.11.9	【第3回観光需要掘り起こしWG会議】 令和5年度事業内容、令和6年度事業計画
R6.2.16	【第3回総合的なアクセス対策WG会議】 総合的なアクセス対策ワーキングの取組内容について及び令和5年度の事業内容 及び令和6年度の事業計画について
R6.2.20	【第4回観光需要掘り起こしWG会議】 令和5年度観光需要掘り起こしWGの取り組み内容について及び令和6年度観光需 要掘り起こしWGの取り組み内容(予定)について
観光需要掘り起こし市内WG	
R5.10.24	勉強会(先進事例の共有)、ワーキング『名城エリアの拠点化に向けての課題は?』
R5.12.18	各種調査結果報告(名城エリアにおける利用者ニーズの実態、人流の実態)、 ワーキング『回遊性を高めるための観光案内サインのあり方』 『回遊性を高めるための移動手段のあり方』

【令和6年度】

開催日	主な議題
名城PT	
R6.8.8	【第4回名城PT会議】 名城PT・WGにおける今後のスケジュール及び事業、令和6年度の取り組み等
R7.3.25	【第5回名城PT会議】 基本構想案について
観光需要掘り起こしWG・総合的なアクセス対策WG	
R6.7.30	【第5回観光需要掘り起こしWG・第4回総合的なアクセス対策WG合同会議】 名城PT・WGにおける今後のスケジュール及び事業、令和6年度の取り組み等
R6.11.21	【第6回観光需要掘り起こしWG会議】 名城エリア基本構想(仮称)骨子案について
R7.2.14	【第5回総合的なアクセス対策WG会議】 中間とりまとめについて及び愛知県新体育館（正式名称 愛知国際アリーナ (IGアリーナ)）の開業に伴う県市連絡調整会議の状況について等
R7.2.18	【第7回観光需要掘り起こしWG会議】 基本構想素案について

【令和7年度】

開催日	主な議題
名城PT会議	
R7.5.13	【第6回名城PT会議】 「名城エリアにぎわい共創基本構想(案)」について
観光需要掘り起こしWG・総合的なアクセス対策WG	
R7.5.9	【第8回観光需要掘り起こしWG・第6回総合的なアクセス対策WG合同会議】 「名城エリアにぎわい共創基本構想(案)」について

(2) エリアミーティング

① 名簿(名城エリアで活動する民間事業者等)

名城エリアとの関連	社名
IGアリーナ	(株)愛知国際アリーナ
	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ(株)
tonarino	アイ・アンド・シー・コーポレーション(株)
フラワープラザ	岩間造園(株)
エスパシオ ナゴヤキャッスル	エスパシオエンタープライズ(株)
金シャチ横丁	(株)新東通信
名古屋城	一般財団法人名古屋城振興協会
名古屋城魅力向上イベント等	(株)クーゴート
ソーシャルキャッスルマーケット	(株)ザ・ソーシャル
堀川クルーズ	東山ガーデン(株)
愛知学院大学	愛知学院大学
名古屋造形大学	名古屋造形大学
観光需要掘り起こしWG	名古屋市

② 開催概要

エリアミーティング		
第1回	R6.8.27	各実施主体の顔合わせ、事業説明、名城エリア拠点化に向けた取り組み、回遊性を高める試行実施について
第2回	R6.9.30	名城エリアは来訪者にどのような価値を提供できる場所であるべきか
第3回	R6.11.6	回遊性を高める試行実施結果の報告、基本構想骨子について
第4回	R7.3.28	基本構想案について

①名城エリアはどのような場所であるべき？ (目指す姿)

- ✓ 名城エリアの歴史的ストーリーを発信する場所
- ✓ 現在の魅力を発信する場所
- ✓ 目的がなくても長く滞在できる場所
- ✓ 体験を提供する場所
- ✓ 観光客、地域住民、学生など
日常的に人々が集まる場所
- ✓ 地域住民や学生にとっても
憩い、愛着がもてる場所

歴史的
ストーリー
の活用

+

新たな価値
の創造
現在の魅力や
体験の機会

=

日常的に人が集まる
長く滞在できる
憩い、愛着がもてる

②何を切り口にすべきか？

- ✓ 歴史的ストーリーの活用
- ✓ これから関係者と共に作り上げる、
新たな価値やストーリー

③目指す姿の実現のために名城エリアで必要な取り組みは？

- ✓ 公園の価値を共創的に作り上げる
- ✓ 名城エリアでの一体的な取り組みを民間事業者等が一体となって作り上げる
例：歴史やスポーツのイベント
例：回遊すること自体を目的とした取り組み
例：名城エリアの特性を生かした季節のイベント（例：大花見茶会）
- ✓ 文化を耕し、ストーリーをつくる
- ✓ 関係者誰もが名城エリアの歴史的背景や物語を語れるようにする
- ✓ ストレスフリーな場所にする（移動手段）

関係者で
新たな価値
やストーリー、
取り組みを
生み出す

第2回エリアミーティングの結果のまとめ

意見交換のテーマ：名城エリアにおける課題（魅力向上と活性化、回遊性の向上、一体感の創出）に対応していくために何が必要か。どのような方向性が望ましいか。

主なご意見

◆地域資源、歴史・文化資源の活用が必要

- 歴史的なストーリーを掘り起こす
- 御深井焼、窯跡、ツバキの場所等の歴史・文化資源を生かす
- 名古屋城にまつわるスポットを発掘、磨き直し、発信する
- 歴史をベースに集客拠点化の方向性を考える
- 観光や歴史を意識した公園とする
- 北園に城にゆかりのある施設をつくる（茶屋、御深井庭の再現）
- 現状ではランナーが多いため、よりランニングしやすくする

◆新たな魅力の創出が必要

- 歴史に観光、文化、スポーツを重ねる
- 歴史だけでなく、名古屋城とまちとの関わりを発信する
- 名城エリア全体で常時イベントを実施する
- 北園に新たな機能を導入してにぎわいをつくる
- 北園に重心を置いたにぎわいづくり（イベント等）を行う
- 西側からみえる名古屋城の美しい景観を発信する
- 宿泊機能を充実する
- 水辺空間（堀川）をもっと活用する

◆移動手段の充実やウォーカブルな空間形成が必要

- ウォーカブルな空間を形成する
- 自転車が行きやすい空間を形成する
- 移動手段の充実、共通のモビリティを導入する
- 施設間の移動手段として堀川クルーズを活用する
- エリア全体のマップを作成する
- サインの統一を図る

◆関係者間の連携強化が必要

- 名城エリア全体を運営する組織をつくる
- 庁内関係各課との連携を図る
- 名城エリア全体で情報共有、情報発信ができるようにする

第3回エリアミーティングの結果のまとめ



エリアミーティング開催風景

③ 名城エリアの回遊性を高めるための試行的な取り組みの実施

名古屋城で令和6年10月5日(土)・6日(日)に開催されたイベント(ソーシャルキャッスルマーケット)にあわせて、名古屋城と北園間の回遊性を高める試行的な取り組みを実施しました。

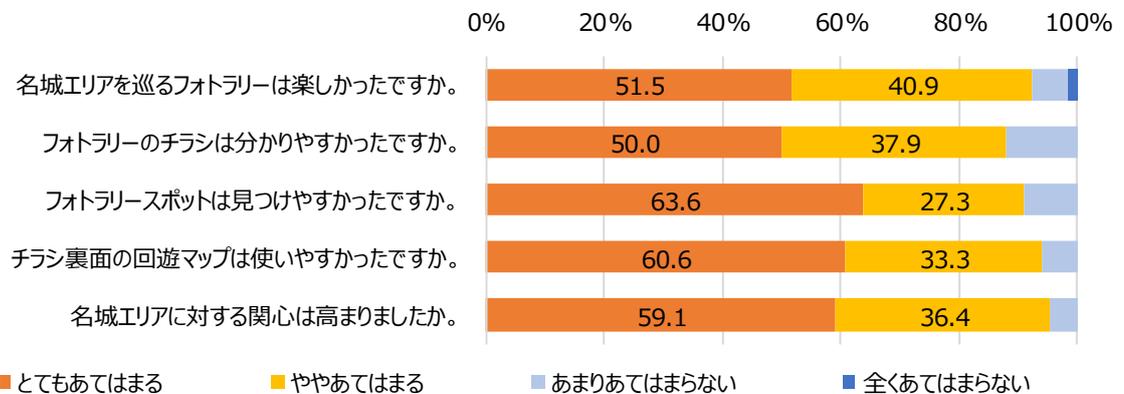
◆回遊を目的としたイベント「フォトラリー」の実施

名城エリア全体に全11箇所のフォトラリースポットを設定し、ゴール地点で撮影した写真を提示すると、スポットごとに設定されたポイントに応じて景品をプレゼントする「フォトラリー」を実施しました。名古屋城から遠くなるほど高いポイントを設定することで回遊を促しました。

2日間で70名の方が参加し、「楽しさ」、「チラシの分かりやすさ(ルールの分かりやすさ)」、「フォトラリースポットの見つけやすさ」、「回遊マップの使いやすさ」のいずれも高評価を得ることができました。また、「名城エリアに対する関心も高まった」という意見が多く得られました。



【参加者アンケート結果(フォトラリーに参加された感想)】(N=66)



◆回遊を目的としたイベント「ランニングイベント」の実施

名古屋城をスタートして、「IGアリーナ」や「堀川クルーズ」等、名城公園のスポットに立ち寄って記念撮影しながらランニングを楽しむイベント(事前予約制)を Minato Running Club(ミナトランニングクラブ)の協力を得て実施しました。

参加者アンケートでは、ランニングコースの走りやすさ、ランニングコースから望む景色ともに高い評価を得られました。ランニングを通じて、本エリアの景色や見どころについての新たな発見に繋がっており、地元以外の方にも本エリアの魅力を知ってもらう方法の一つとして、ランニングイベントは効果的であると考えられます。



【参加者アンケート結果(名城エリアならではの見どころだと思ったこと、良かったこと)】(自由記入)

- ・城がきれいに見えた。
- ・近くにお城を眺めながら走れた。
- ・名古屋城。木の形が大きいものから長いものまで、多種多様でおもしろかった。
- ・たくさんの来場者、観光客の中を走り抜けることが気持ち良かった。 など

◆歩行者の移動支援の実施

金シャチ横丁宗春ゾーン～名城公園(tonarino)間で新たな移動手段「パーソナルモビリティ」の試乗体験を実施しました。

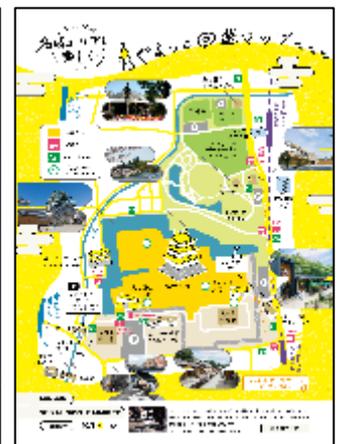
2日間で79名の方が参加されました。参加者アンケートでは、本エリアにパーソナルモビリティが置いてあった場合に「利用したい」と回答した方は約7割、「周遊すると思う」と回答した方は6割であり、一定程度の利用と回遊性向上効果があると想定されます。

一方、走行中に不安を感じる方が4割を占め、人が多いときや自転車が横切るときに不安を感じる方が一定程度いることが分かりました。



◆回遊性を高める情報の発信

フォトラリーやパーソナルモビリティ試乗体験の周知と回遊マップ(チラシ、大型看板)を兼ねたチラシとポスターを本エリア内で配布・設置しました。



(3) 有識者ヒアリング

① 名簿

(敬称略、五十音順)

所属	氏名
大阪城パークマネジメント株式会社取締役事業開発部長	伊藤 憲浩
名古屋学院大学 現代社会学部 教授	古池 嘉和
株式会社ツーリズムデザイナーズ 代表取締役	田尾 大介
観光文化交流局名古屋城総合事務所名古屋城調査研究センター課長補佐	原 史彦
中京大学スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科 准教授	舟橋 弘晃

② 有識者ヒアリング概要

有識者ヒアリング		
第1回	R6.12	基本構想骨子について
第2回	R7.3	基本構想案について

【第1回有識者ヒアリング】

区分	主なご意見	
基本構想の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者とともに名城エリアを新しく創り上げる視点が大切(共創)。 ・名城エリアの一体感を作るためには、歴史的なモノを含めこれまでにあるものを利用し「新しいモノ」を創り上げることが必要であり、「共創」という理念が大切。 ・公民連携と多様性を強調して、「協創」や「共創」という言葉を用いてはどうか。 ・市民との協働や、名古屋城と北園との相互関係を示せるとよい。 ・名城エリアの資源を活かし、市民・来訪者にとって居心地の良い空間を創出し、名城エリアの価値を高める観点から「プレイスメイキング」という概念が適している。 	
目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「集客」という概念を再定義し、まず日常的な憩い、にぎわいを生み出すべき。 ・「交流拠点」、「にぎわいの拠点」、「共生の場」と表現してはどうか。 ・名古屋城を活かし、他都市にない魅力をアピールする視点が大切。 ・観光だけでなく、地域住民の日常生活にも目を向けるのであれば、多様なステークホルダーとの調整が必要。 ・名古屋と言えば「三英傑」だけでなく、名古屋城や城下町は「尾張徳川家」というシフトが必要。 	
目指すべき姿の現実に向け	1 歴史文化、多様な魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・アート(芸術)の視点を名城エリア全体に広げる。 ・IGアリーナの興行や顧客属性も多様であるため、必ずしもスポーツ型の体験アトラクションが、来訪者の満足度を高める上での最適解とは限らない。 ・名古屋城、尾張徳川家、尾張藩等の情報共有が大切。
	2 回遊性、一体感	<ul style="list-style-type: none"> ・北園側からの名古屋城の景観について、今回取り組む誰もが「写真を撮る気持ち」で名城エリア内の景観を考えることが肝要。 ・一体感を生み出すにはデザインが大切であり、そのプロセスも重要。地元の芸術系大学との連携により、デザインワークショップ等を実施して、市民を巻き込んだサイン・デザイン計画が必要ではないか。

区分		主なご意見
目指すべき姿の実現に向けた方向性	3 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋造形大学、愛知学院大学との連携については、他都市で先行する取り組み事例を参考にしてはどうか。公園とデザインやアートの親和性は高い。 ・一次集客を生み出すためには、界隈にある大学との連携が大切。持続的な集客拠点の形成においては、一次集客の人が、三次集客をもてなす仕組みが欠かせない。
	4 アクセス対策	<ul style="list-style-type: none"> ・「路上駐車のを禁止を徹底し、エリア内外を繋ぐ回遊シャトルバスの運行を実現する」ことにより、市内の主要エリア（名古屋駅、栄地区等）とのアクセスを強化し、スムーズな人の流れを確保する。 ・交通機関だけでなく通信環境の改善も必要。
	5 エリア間の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺との連携は、名古屋城からの歴史的価値を、城下町界隈として表現するための連携が軸になると思う。名古屋城からの歴史は、名古屋城下町としての「物語」の価値を、界隈として表現することが必要。 ・全体でのにぎわいベースの基本にも「尾張藩」「尾張徳川」が共通ワードではないか。
方向性ごとの取り組み方針	1 歴史文化、多様な魅力	<ul style="list-style-type: none"> ■名古屋城周辺の魅力向上に対して <ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の魅力的なイベントを開催する。 ■北園周辺の魅力向上に対して <ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の役割の一つである「防災」の視点の追加が必要。
	2 回遊性、一体感	<ul style="list-style-type: none"> ■一体感を感じられる空間づくりに対して <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成（特に天守閣を望むビューポイントの整備）を行う。
	3 体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■体制づくりに対して <ul style="list-style-type: none"> ・産官学民による「名城エリアマネジメント協議会（仮称）」を設置してはどうか。
	4 アクセス対策	<ul style="list-style-type: none"> ■IGアリーナ開業に伴う検討 <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者に対する愛知・名古屋の魅力発信や来訪者消費促進対策を追加。 ・公園の事業者全体で興行日（イベントカレンダー）を前もって把握できる体制を整えることが必要。
	5 エリア間の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ■周遊性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセスルート上の拠点整備やウォークアブルなアクセスルートの整備、物語性のある回遊ルートの強化を行う。

【第2回有識者ヒアリング】

区分		主なご意見
名城エリアの課題、方向性について		<ul style="list-style-type: none"> ・名城エリア全体でなぜ回遊性を高めていく必要があるかということ、これまでの調査結果を基に示せるとよい。 ・名城エリアの課題は幅広い視点から記載されており、確実に課題に対応するためには時間軸や優先順位を設定して考えていくとよいと思う。 ・名城エリアの中だけで1日を楽しむというのはなかなか難しいため、名古屋市内の色々な観光地へ波及させていくという考え方で回遊性を検討するとよい。
目指すべき姿の実現に向けた空間づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿の実現に向けた空間づくりの図については、北園にIGアリーナが加わることで北園の来場者属性が大きく変わること留意したものとすることが望ましい。
方向性ごとの取り組み方針	1 歴史文化、多様な魅力	<p>■北園周辺の魅力向上に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南側のエントランスからすぐに見える位置にある北園の広場は、現状では市民が日常的に利用しているようには見えない。市民や学生が日常的に昼食に利用したり、休憩したりする空間になっていくとよい。利用者が多くなれば、観光客も行ってみたいと思うだろう。 ・北園における天守閣等の視点場の確保は非常に重要なのでぜひ進めてほしい。
	2 回遊性、一体感	—
	3 体制づくり	<p>■体制づくりに対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学関係者との連携や学生の視点を活かした名城エリアの魅力向上に資する取り組みは重要であり、ぜひ進めてほしい。 ・学生との協働については大切なことであるが、取り組みのターゲットが地域なのか、観光客なのかをしっかりと切り分けながら考えていく必要がある。 ・横断的な問題に対応するための横断的な実行体制が必要である。名城エリアに関わるメンバーで協議会を作って継続的に話をすることが大事である。
	4 アクセス対策	—
	5 エリア間の連携強化	<p>■回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名城エリアの拠点機能強化をきっかけとして、文化のみちやウォークブルを考える動きが活発化するとよい。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想に位置づけられた取り組みを中長期的に評価するための定量的な指標があった方が望ましい。 ・多くの人に名城エリアに集ってもらうためには、SNSが全盛であるので、インフルエンサーやファンの人たちをつくるのが大事である。例えば、歴史文化の観点から、「藩」というカテゴリーの中で推進するということも考えられる。